授業科目名		1	
実務経験講師	2	実務経験	3
開講年度	④ 年度	学 期	6
年 次	⑤ 年次	授業回数	<b>7</b> п
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要		8	
授業科目の到達目標		9	

	内	容		授業方法	課題/小テスト
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7			 10		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提と	
なる主な科目	
この授業科目から発展	
する主な科目	
成績評価の方法	
その他	
受講生への要望等	

### ① 授業科目名

#### ② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験がある ということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

#### ③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

#### 4開講年度

#### ⑤年次

授業を受ける学年です。

#### 6学期

前期・・・4月~9月

後期・・・10月~3月

通年(全期)・・・1年間を通して、もしくは前期~後期にかかるどこかの期間で

## ⑦授業回数

## ⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

## ⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

## ⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が 書かれている場合もあります。

#### ①使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	助産学概論		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	_	授業回数	7 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	この授業科目は助産学を学ぶ上での基盤に位置し、助産とは何か、助産師の役割・使命について学びます。そのために、歴史や変遷を知り、現在助産師に求められていることを明確にします。さらに助産の対象、助産師が実践するケアとは何かを理論を用いて検討することで、助産師の専門職としての役割に気づき、助産実践を行う前提として知識・技術を修得するための構えを形作る授業科目です。		
授業科目の到達目標	1. 歴史的な変遷を踏まえ、助産、助産師の役割を述べることができる 2. 助産の対象である女性の権利を尊重し、生涯の健康を支える必要性と方法について説明することができる 3. 助産実践の場面で生じる倫理的課題について知り、助産師の役割を想起できる 4. 女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる 5. 助産実践のあり方について述べることができる		

回	内容	授業方法	課題/小テスト
	1. イントロダクション	ガイダンス	事前:女性・家族にとって出産の意義
	2. 助産の概念	講義	とは何かを文献を用いて 400 字程度
	1) 助産の起源		にまとめる。
1	2) 出産の変遷(出産の施設化と医療化)		授業終了後:今回の授業で得た気づ
1	3) 助産の定義 (狭義・広義)		きを追加し提出。
	4) 助産の意義・本質		
	キーワード:助産 出産 女性 母性 変遷		
	テキスト: p 2 ~35 配布資料		
	1. 助産師の定義	グループワーク	看護師の倫理綱領を熟読の上、要約
	1) 国際的な定義	講義	して授業に臨む。
	2) 我が国の定義		
2	3)助産師に求められる能力 リプロダクティブヘルスライツ		
	キーワード:助産師の声明 コアコンピテンシー 倫理綱領 ICM		
	職能団体		
	テキスト: p 38~44   p 98~114   配布資料		
	1. 助産師の義務と責務	プ゜レセ゛ンテーション	保健師助産師看護師法の関連する条
	1)助産師の業務	講義	項について要旨をまとめる。
3	2) 助産師の責務		
	2. 助産師の教育		小テスト実施
	キーワード:関係法規 助産師の基礎教育 クリニカルラダー		
	テキスト: p 46~59 p190~207 配布資料		
	1. 助産師が行うケアの基盤	講義	提示する理論について学習し臨む。
	1) 助産を実践するための理論	グループワーク	諸理論を活用した助産実践のあり方
4	2) 対象のとらえ方		についての考察を授業終了後に 800
•	(1)セルフケア理論 (2)役割理論 (3)愛着理論		字以上にまとめ、提出する。
5	(4)危機理論		
5	3) Woman-centered care		
	4) Evidence Based care		
	2. 今後の展望・今後求められる助産師の役割		

	キーワート : 対象理解 意思決定 女性中心のケアエンパワメント 助産と evidenceテキスト: p62~96配布資料		
	1. 助産の歴史と文化 1) 助産の変遷 2) 諸外国の助産の変遷	講義	
6	3) 助産の文化		
	キーワード:お産の歴史 お産と文化		
	テキスト: p152~p188 参考書②		
	1. 母子保健の動向	講義	母子保健について重要語句の定義を
7	1) 母子保健の歴史 2) 母子保健の動向と諸制度		まとめ授業に持参する。
,	キーワード:母子保健 指標と動向 行政 関係法規		
	テキスト: p 116~149 参考書③		

使用テキスト	助産学講座1 基礎助産学(1)助産学概論
参考書・資料等	<ul><li>①助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論</li><li>②【新版】助産師業務要覧 基礎編 日本看護協会出版会</li><li>③我が国の母子保健 母子衛生研究会編</li></ul>
この授業科目の前提と	基礎看護学 母性看護学
なる主な科目	
この授業科目から発展 する主な科目	基礎助産学の科目群 助産診断・技術学の科目群 助産管理 地域母子保健 助産研究(文献講読) 助産学実習(助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習)
成績評価の方法	筆記テスト(単位認定試験)60% レポート課題 20% グループワークの成果(相互評価)10% 小テスト加算 10%
その他	助産観を形作る上で欠かすことのできない授業科目です。一人ひとりが「どんなケアを行う助産師
受講生への要望等	を目指すのか」「助産師になって何を実現するのか」を考えながら受講することを望みます。

授業科目名	生命倫理		
実務経験講師	_	実務経験	_
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	_	授業回数	8回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	生命の誕生に携わる助産師には倫理的感応力が求められます。対象となる一人ひとりの女性や 子ども及び家族を尊重する姿勢が大切であり、そのための基盤となる生命の尊厳と倫理観につい て学びます。 生殖補助医療や出生前診断などの現在の動向を知り、助産師としての基本理念について学び、 生殖に関わる倫理的問題をその根幹から理性的に理解して、どのように考え行動するかを追求 する姿勢を養う科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>生殖医療等の医療現場におけ ことができる。</li> <li>生命倫理学上の諸問題につい</li> <li>助産実践のあり方について、</li> </ol>	て、助産師の立場で考え	

	内 容	授業方法	課題/小テスト
	1.生命倫理とはどのようなものか	講義	リアクション・ペーハ゜ー
	1)生命倫理の位置づけ		・授業を聞いて考えたこと
	2)なぜ生命倫理が必要なのか		・質問、要望
	3)生命倫理の考え方		演習課題提示
1	4)四原則アプローチ		
	2.生殖の倫理的問題とは何か		
	1)自律・自己決定原則		
	2)子どもをもつ権利・生殖の自己決定		
	キーワード:哲学 倫理学 医療倫理の四原則 リプロダクティブ・ライツ		
	1.生殖補助医療	講義	リアクション・ ペ ーパ ー
	1)生殖技術と生殖補助医療		・授業を聞いて考えたこと
2	2)不妊治療の現状と負担		・質問、要望
	3)不妊治療・生殖補助医療の倫理的問題		
	キーワード: 不妊治療 生殖補助医療(ART) 精子バンク		
	精子提供(AID)		
	1.代理懐胎・代理母	講義	リアクション・ヘ゜ーハ゜ー
	1)卵子提供・胚提供の諸問題		・授業を聞いて考えたこと
3	2)代理母の倫理問題		・質問、要望
	3)医療における情報と守秘義務		
	キーワード:卵子提供 代理母 守秘義務		
	1.生殖補助医療の中から選んだあるケースについての討論	演習	リアクション・ヘ゜ーハ゜ー
4	キーワード:	(グ ループ ワーク)	・授業を聞いて考えたこと
			・質問、要望
	1.人工妊娠中絶	講義	リアクション・ ペ ーパ ー
	1)人工妊娠中絶の現状		・授業を聞いて考えたこと
	2)人工妊娠中絶の方法		・質問、要望
5	3)生命倫理における人工妊娠中絶論		
	2.多胎妊娠と減数手術		
	1)多胎妊娠と減数手術に関する経緯		
	2) 多胎妊娠と減数手術の現状		

	3)減数手術の問題点		
	キーワード:優生保護法 人工妊娠中絶 胎児の道徳的地位		
	多胎妊娠のリスク 減数手術		
	1. 障害をもつ新生児の治療停止	講義	リアクション・ ペ ーパ ー
	1)障害新生児の治療停止をめぐる事情		・授業を聞いて考えたこと
	2)(親の)自己決定と医療のパターナリズム		・質問、要望
	3)コスト負担:配分的正義		
6	2.出生前診断の倫理問題		
	1)出生前診断・着床前診断		
	2)出生選択の倫理		
	キーワード:障害 生の質(QOL) コンフリクト 出生前診断		
	着床前診断(PGD)		
	1.障害と生の質の選択の倫理問題	講義	リアクション・ ペ ーパ ー
	1)生の質の選択の生命倫理		・授業を聞いて考えたこと
	2)障害学と障害の社会モデル		・質問、要望
7	3)合理的選好と障害の医療モデル		
1	4)現代における「優生思想」の意味		
	5)障害とエンハンスメント		
	キーワード:障害 生の質 ES 細胞 デザイナー・ベビー		
	エンハンスメント 代置原理		
8	単位認定試験		
U			

使用テキスト	講師作成資料
参考書・資料等	吉武久美子『産科医療と生命倫理』昭和堂 小林亜津子『生殖補助医療はヒトを幸せにするのか 生命倫理から考える』光文社文庫 赤林朗ほか『入門 医療倫理 I 』『同 II 』『同 III』勁草書房
この授業科目の前提と なる主な科目	看護学概論 母性看護学
この授業科目から発展 する主な科目	助産学概論 助産診断・技術学の科目群 助産管理 地域母子保健 助産研究(文献講読)助産 学実習(助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習)
成績評価の方法	筆記テスト (小論文作成)
その他受講生への要望等	助産観を形作る上で欠かすことができない授業科目です。一人ひとりが問題意識をもって「どのように関われば対象を尊重できるのか。」「倫理的感応力を高めてケアするためにどうすればよいか。」を考えながら受講して下さい。

授業科目名	家族社会学		
実務経験講師	_	実務経験	_
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	_	授業回数	10回(各講師講義4回 試験1回)
単 位 数	1 単位	単位時間数	16 時間 (講義) +2 時間 (認定試験)
授業科目の概要	この科目では現代社会で生きる女性・家族の役割獲得を助産師として支え、発達を促進する上で 必要な知識を学修します。社会の変化の中で女性や母親に求められる役割や、発達過程は変化し 続けており、助産師による女性・家族のケアニードは高まっています。 リプロダクティブヘルスにたずさわる専門職として、多様な視点から、家族・女性・母性・父性に ついて学び、助産師として適切に支えるための視点を養います。		
授業科目の到達目標	ついて学び、助産師として適切に支えるための視点を養います。  1. 現代の家族の機能・役割・発達課題について説明できる。  2. 社会学の観点から母性・性の定義・特性について説明ができる。  3. 文化的な側面からの出産について説明できる。  4. 現代社会における母親・父親の特徴と課題を社会学的な視点から説明できる。  5. 助産の対象として女性、子ども、親となる人が遭遇する困難や課題について視野が拡大する。		

口	内容	授業方法	課題/小テスト
	家族と社会	講義	教科書を読んで授業に臨む
1	家族とは何か 家族の機能とはたらき		(第3章A
1	家族関係の発達と課題		家族の機能と役割)
	キーワード: 主観的家族像 ライフコース		
	家族と社会:近代家族の特徴と問題	講義	教科書を読んで授業に臨む
2	社会学から見た性:生物学的ジェンダー		(第3章 B/C 第4章 A)
•	ジェンダー・アイデンティティ、性役割		
3	出産にまつわる文化①		
	キーワード:ジェンダー・アイデンティティ 性役割		
4	出産にまつわる文化②:現代の出産を考える	講義	教科書を読んで授業に臨む
4	キーワード: 通過儀礼		
5	単位認定試験		
5			
6	母性の発達過程	講義	教科書を読んで授業に臨む
O	‡-ワ-ト:母性		
	養育行動に影響する要因 心理学的発達段階	講義	教科書を読んで授業に臨む
7	母親の発達段階	演習	
,	母親の役割		
	‡-ワ-ト <sup>*</sup> : テキスト :		
	乳幼児期の母子関係 愛着の形成	講義	教科書を読んで授業に臨む
8	母子関係の病理(虐待等)		
	キーワート゜: デキスト:		
	父子関係の形成と課題		
9	父性の発達 父親の役割変化		
9	日本と世界の父親像		
	‡-ワ-ド: テキスト:		
10	単位認定試験		
10			

使用テキスト	①基礎助産学【4】母子の心理・社会学 医学書院
参考書・資料等	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 5 版 医学書院
この授業科目の前提と	心理学 文化人類学 社会学 基礎看護学 母性看護学 小児看護学
なる主な科目	助産学概論 女性の心理学 生命倫理
この授業科目から発展	助産診断・技術学の科目群 地域母子保健 助産管理
する主な科目	助産学実習
成績評価の方法	講師ごとに終講時 50 点満点の筆記試験を実施
その他	関係書籍を講読するなど、主体的な学習を希望します。
受講生への要望等	

授業科目名	女性の心理学		
実務経験講師	○ 実務経験		臨床心理士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	_	授業回数	8回
単 位 数	1単位 単位時間数		15 時間
授業科目の概要	接業科目の概要 さまざまなライフステージにおける女性・母親の心理的特徴と、産前・産後うつやドメステーク・バイオレンス、児童虐待といった病理に陥る心理的要因と支援について学習します。 現代社会における母親・父親・子育ての特徴と課題を理解し、助産師として適切に支えるため視点を養うための授業科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>さまざまなライフステージにおける女性の心理的特徴が述べられる。</li> <li>女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスへの支援が述べられる。</li> <li>家族の社会的機能や子育て支援が説明できる。</li> <li>心理的特徴を理解した上で、心理面から女性を支えるカウンセリング技法の方法が習得できる。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	1. 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
1	1) 思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題		
1	キーワード:思春期 青年期 アイデンティティ メンタルヘルス		
	教材:①P2~27		
	1. 成人期初期・中期女性の発達と心理・	講義	教科書を読んで授業に臨む
	社会的課題		
	1) 恋愛 結婚		
	2) 妊娠・出産		
2	3) メンタルヘルス		
	(1)マタニティブルーズ		
	(2)産後うつ		
	キーワード:結婚 妊娠 出産 マタニティブルーズ 産後うつ		
	教材:①P28~39 47~56		
	1. 成人期初期・中期女性の発達と心理・社会的課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
3	1)妊娠・出産をめぐる諸問題		
	キーワード:不妊治療 出生前診断 周産期喪失 人工妊娠中絶		
	教材:①P39~47		
	1. 更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
	1) 更年期の身体的変化とその心理的受容		
	2) 更年期症状・更年期障害		
	3) 結婚生活の変遷と離婚		
4	4)職業生活の変化		
	5) 対人関係の変化		
	6) 老年期の身体的変化と受容		
	7) メンタルヘルス		
	キーワード:更年期 中年期 老年期 更年期うつ 認知症		
	教材:①P57~74	=#: <del>*</del> *	*/
	1. 家族関係の発達と課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
5	1)母子関係の形成と課題		
	キーワード:母親役割 母子関係 児童虐待 愛着		
	教材:①P76~110		

	1. 家族関係の発達と課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
	1) 母子関係の形成と課題	演習	
6	(1)母子関係の病理		
O	2. カウンセリング技法		
	キーワード:児童虐待 発生要因 周産期うつ カウンセリング		
	教材:①P98~103		
	1. 父子関係の形成と課題	講義	教科書を読んで授業に臨む
	1) 父子の発達過程		
	2)父子関係と子どもの発達		
7	3) 父親のメンタルヘルスと家族のリスク		
1	2. 家族・地域のネットワーク		
	キーワード:父性 父子関係 父親役割 メンタルヘルス		
	対人関係ネットワーク		
	教材:①P111~119 133~148		
8	単位認定試験		

使用テキスト	①基礎助産学【4】母子の心理・社会学 医学書院
参考書・資料等	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 5 版 医学書院
この授業科目の前提と	母性看護学 看護学講座 心理学
なる主な科目	地域母子保健
この授業科目から発展 する主な科目	助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV 産褥期 助産学概論 地域母子保健実習 助産診断・技術学実習 助産管理実習
成績評価の方法	単位認定試験 100 点
その他	女性のライフステージにおける心理的特徴を学び、さまざまな女性に寄り添える助産師を目指し
受講生への要望等	ましょう。

授業科目名	女性の健康科学		
実務経験講師	0	実務経験	医師、助産師
開講年度	2022 年度	学期	前期
年 次	_	授業回数	23 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	人間の性と生殖にかかわる特徴及び生殖系の形態と生理・機能を理解し、思春期から老年期に   おける健康問題について、対象の健康と自立を支援する基礎的知識を学びます。		
授業科目の到達目標	1. 女性の性・生殖の基本的な概念が理解できる 2. リプロダクティブヘルツ/ライツについて理解できる 3. 母子の健康に影響を及ぼす因子について理解できる 4. 女性のライフサイクル各期に起こる健康課題を理解できる 5. 女性のライフサイクル各期に起こる心理的特徴と課題を理解できる 6. 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患の病態生理を理解できる		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
1	性と生殖の形態・機能  1) 人体の発生  2) 男性生殖器の構造と機能  3) 女性生殖器の構造と機能  4) 骨盤の構造と機能  5) 性周期と調節機序 キーワード:着床 女性生殖器 骨盤の構造 月経	講義	配布資料を見ておく
2	教材:教科書(母子の基礎科学)p2~39 配布資料 母子と免疫 1)免疫のしくみ 2)妊娠の維持機能と免疫 不妊症 1)不妊症: 女性側原因・男性側原因 生殖補助医療 1)人工授精 2)着床前遺伝子診断 3)生殖補助医療の問題 キーワード:妊娠維持機構 ホルモン 免疫 排卵障害	講義	配布資料を見ておく
3	卵管の障害 卵子の寿命 生殖 教材:教科書 (母子の基礎科学) P156~172 p43~49 p136~154 配布資料 女性の感染症 1) 性感染症 2) 婦人科の炎症疾患 3) 罹患者へのアセスメントと支援 キーワード:ヘルペス 尖圭コンジローマ HPV クラミジア 膣炎 子宮頸管炎 教材:教科書 (母子の基礎科学) p198~216 配布資料	講義	配布資料を見ておく
4	性と生殖に関する疾患 1) ライフサイクルに関連した疾患・症状 思春期・成熟期・更年期・老年期	講義	配布資料を見ておく

	キーワード:性分化異常 無月経 月経異常 月経困難症		
	月経前症候群(PMS) やせ 肥満 閉経		
	教材: 教科書 (母子の基礎科学) p218~239		
	配布資料		
	遺伝と遺伝性疾患	講義	配布資料を見ておく
	1) 染色体異常	<b>神我</b>	11.14月科で兄(わく
	2) 遺伝疾患		
5	3) 出生前診断 キーワード: ダウン症 18 トリソミー クラインフェルター症候群		
	染色体優勢遺伝		
	教材:教科書(母子の基礎科学) p84~125		
	配布資料		
	日子と感染	講義	配布資料を見ておく
	1) 母子感染	冊我	配仰其件を充くるく
	風疹・ヘルペス・水痘・肝炎ウイルス・他		
6	キーワード: 風疹 トキソプラズマ ヘルペス B型肝炎		
U	ALT B 群溶連菌		
	教材: 教科書 (母子の基礎科学) p174~202		
	配布資料		
	女性の性・生殖の基本的な概念(1)	講義	
	1) リプロダクティブヘルツ/ライツ	冊我	
7	キーワード: リプロダクティブヘルツ/ライツ		
	教材:教科書(助産学概論 P28~34) 配布資料		
	女性の性・生殖の基本的な概念 (2)	講義	
	1) リプロダクティブヘルツ/ライツ	li 14X	
	キーワード:リプロダクティブヘルツ/ライツ		
8	セクシュアリティ ジェンダー		
	教材:教科書(助産学概論)P28~34 (母子の基礎科学)P64~82		
	配布資料		
	性と性行動 (1)	講義	
	1) 性とセクシュアリティ		
	2) 発達段階とセクシュアリティ		
	3) 人間の性行動の生理と心理		
9	4)性反応		
	5)性をめぐる諸問題		
	キーワード:性 ジェンダー セクシュアリティ 思春期の性		
	成熟期の性 中高年期の性 性差		
	教材:教科書(母子の基礎科学) P64~82 配布資料		
	性と性行動 (2)	講義	
	1) 性とセクシュアリティ		
	2) 発達段階とセクシュアリティ		
	3) 人間の性行動の生理と心理		
10	4) 性反応		
	5) 性をめぐる諸問題		
	キーワード:セクシュアリティ 性差 性教育 性機能障害		
	性嗜好障害 性同一性障害		
	教材:教科書(母子の基礎科学) P64~82 配布資料		
	母子の健康に影響を及ぼす因子(1)	講義	
11	1) 生活環境と環境汚染		
12	2) 物理・化学的環境 3) 嗜好品 4) 薬物		
	キーワード:放射線・放射能 環境問題 食品の安全 依存薬物		

	度が日(タバコ・アルコール・カフェイン)		
	嗜好品(タバコ・アルコール・カフェイン)		
	教材:教科書(母子の健康科学) P2~30 P92~110		
	配布資料	-W. M.	
13	母子と栄養(1)	講義	
	1) 妊娠〜授乳期の栄養		
14	2) 栄養状態の評価法		
'	キーワード:母子の栄養 栄養状態の評価 食事指導		
	教材:教科書(母子の健康科学)p32~61 配布資料		
	女性のライフサイクル各期の健康課題(1)	講義	
	1) 身体変化の特徴と健康課題		
	2) 思春期(第二次性徴と健康課題)		
	3) プレコンセプションケアとは その重要性		
15	4) ライフサイクル各期の女性の健康水準の診断		
13	キーワード:思春期 第2次性徴 月経の異常 若年妊娠		
	社会的問題 プレコンセプションケア		
	教材:教科書(母子の基礎科学)p218~240		
	教科書(助産診断・技術学 I ) p 182~214		
	配布資料		
	女性のライフサイクル各期の健康課題(2)	講義	
	身体変化の特徴と健康課題		
	成熟期(性周期・生殖機能と健康課題)		
	ライフサイクル各期の女性の健康水準の診断		
16	キーワード:成熟期 女性ホルモン 結婚 出産 育児		
	教材: 教科書 (母子の基礎科学) p218~231		
	教科書(助産診断・技術学 I ) p 215~256		
	配布資料		
	女性のライフサイクル各期の健康課題(3)	講義	事前配布の「成熟期女性の
	身体変化の特徴と健康課題		ケア」を熟読し講義に臨む
	更年期(卵巣機能低下と健康課題)		
	老年期(加齢と健康課題)		
	ライフサイクル各期の女性の健康水準の診断		
17	不妊に悩む女性への支援		
Δ,	キーワード: 更年期 閉経 エストロゲン低下 老年期 老化減少		
	老い 生きがい 不妊 不妊治療		
	教材: 教科書 (母子の基礎科学) p232~240		
	教科書(助産診断・技術学 I ) p 258~280		
	配布資料		
	女性のライフサイクル各期の健康課題(4)	講義	事前配布の「不妊に悩む
	DV に悩む女性への支援	叶玫	女性への支援」を熟読し
18	キーワード:DV DV サイクル DV 防止 助産師の役割		講義に臨む
			曲我にこと
	教材:教科書(助産診断・技術学 I) p 220~222	<b>港</b> 業	東前和左の「ドコッニ・・
	女性のライフサイクル各期の健康課題(5)	講義	事前配布の「ドメスティッ
10	月経障害に悩む女性への支援		クバイオレンスに悩む女性
19	キーワード:月経 月経障害 PMS 症状軽減のケア		への支援」を熟読し講義に
	教材:教科書(助産診断・技術学 I ) p 210~212		臨む
	配布資料	-44-24	
	集団指導の事例展開(1)	講義	事前配布の「月経障害で
20	思春期女性への指導		悩む女性への支援」を熟読
	キーワード:月経 貧血 性教育 思春期外来		し講義に臨む
	教材:教科書(助産診断・技術学 I ) p 182~222		

	集団指導の事例展開 (2)	講義	
21	成熟期女性への指導		
21	キーワード:家族計画 子宮頚がん検診 性感染症 人工妊娠中絶		
	教材:教科書(助産診断・技術学 I ) p 224~256		
	集団指導の事例展開 (3)	講義	
22	更年期・老年期女性への指導		
22	キーワード: 更年期障害 骨粗鬆症 骨盤臓器脱 尿失禁		
	教材:教科書(助産診断・技術学 I ) p 258~287		
	骨盤ケア	講義	事前配布の「中高年女性の
		演習	ケア」を熟読し講義に臨む
23	単位認定試験		
23			

(井田ニよう)	基礎助産学[1]助産学概論 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 (医学書院)
使用テキスト	基礎助産学[3]母子の健康科学 助産学講座[5] 助産診断・技術学 I (医学書院)
参考書・資料等	病気が見える 9 (婦人科) 病気が見える 10 (産科) (メディックメディア)
この授業科目の前提と	解剖・生理学 疾病論 (産婦人科領域) 微生物学 公衆衛生学
なる主な科目	母性看護学
この授業科目から発展	助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV 産褥期
する主な科目	助産診断・技術学V 新生児期乳幼児期
成績評価の方法	筆記試験
その他	助産師として、性と生殖にかかわる思春期から老年期における健康問題について、個別集団に対
受講生への要望等	する保健相談技術ができる知識を養ってほしいと願います。

授業科目名			
			and the land
実務経験講師 ————	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年	学期	通年
年 次	_	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	本校は、複数の医療福祉の専門職を養成する専門学校として、多職種連携教育に力を注いでいます。この科目では、医療福祉系の複数学科の学生が、互いの職種について学び、自分の職種についても学びを深め、卒業後臨床において、専門職者として他職種と連携・協働するための基礎的知識や能力をはぐくみます。本校では初期・中期・完成期の3段階に分け、学科ごとの学修の進度(表1)に応じて目標を設定し、演習を行います。 各学科における位置づけ、科目との関連性は(表2)に示します。		
授業科目の到達目標	各学科における位置づけ、科目との関連性は(表2)に示します。   科目全体		

段階	内容	授業方法	該当学科・学年
	多職種連携・協働、チーム医療の意義や必要性 対人を援助する職業に就くとは	講義	介護福祉学科 理学療法学科
初期	対象となる人の見方、とらえ方 自分が目指す職種のイメージ	グループワーク	作業療法学科 看護学科 助産学科
	IJA III AMESTA		歯科衛生学科
中期	お互いの職種を知る 他職種とつながるためのコミュニケーション	ワールドCafé などの ワークショップ	中期に該当する年次
完成期	事例検討会 事例提示・検討 発表 意見交換	グループワーク	完成期に該当する年次

### 表1:各学科の学年 と IPEの学修段階イメージ(交流時期)

$\wedge$	ļ	段	階	<b>作業・理学</b> (4 年課程)	<b>看護・歯科</b> (3年課程)	<b>介 護</b> (2 年課程)	<b>助 産</b> (1 年課程)
卒	`	完成	戊期	4 年次 3 年次	3 年次	2 年次	
卒業	-	中	期	2 年次	2 年次		
入学	;	初	期	1 年次	1 年次	1 年次	

#### 表2:各学科のカリキュラム上の位置づけ

学科名	分野/科目	内 容	
	リハヒ゛リテーション概論	保健医療福祉とリハビ リテーションの理念 ◇国民の保健医療福祉の推進のために、リハビ リテーションの理念(自立支援、就労支	
理学療法学科		援等)、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、 多職種連携について学ぶ。 ◇地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。	
作業療法学科	地域作業療法学実習 I	保健医療福祉とリハビ リテーションの理念  ◇国民の保健医療福祉の推進のために、リハビ リテーションの理念(自立支援、就労支援等)、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。  ◇地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。	
看護学科	地域・在宅看護論	地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、多職種と協働する中での看護の役割を理解する。	
有吸丁们	看護の統合と実践	チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ。	
<b>加</b> 杂 尚 叙	助産診断・技術学	助産の実践に必要な基本的技術及び対象や他職種と信頼関係を築き協働する めのコミュニケーション能力を高める(聴く、伝える、理解する、調整する能力)	
助産学科	地域母子保健	多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供するために保健・医療・福祉の専門職と連携・協働しながら地域での子育て世代を支援する能力を身につける。	
歯科衛生学科	さまざまな場面で求められる歯科衛生士の役割が理解できる。		

マの利日の部/田	学科のシラバス参照
この科目の評価	時期に応じた評価アンケート
	多職種を養成する本校だからこそ学べる科目です。各期の目標を参照し、チーム医療に携わる自分を
平黒井。の西胡	イメージして参加してほしいと考えています。また、実施後には時期に応じた評価アンケートへの
受講生への要望	回答をお願いします。皆さんの目標への到達度を確認すると共に、本校の多職種連携教育を振り返り、
	よりよい科目へと育てる資源となりますので、ご協力をお願いします。

授業科目名	助産研究(文献講読)			
実務経験講師	0	実務経験	助産師	
開講年度	2022 年度	学 期	後期	
年 次	_	授業回数	8回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	この科目では、臨床実践を行う上で、研究が果たす役割を知り、文献を読むための基本的な知識を身につけます。科学的根拠に基づいた実践を行う上で論文を活用する能力は助産師として必須です。この科目では実習を通して関心のあるテーマに対して文献検索を行い、その内容を吟味する方法について、実践を通して学びます。 将来的には実践で感じた疑問を解決するために、研究を行い、成果を公表する必要性に気づき自己研鑽し続ける意義を、見出してほしいと考えています。			
授業科目の到達目標	加定師にとって実践と研究の関係性が説明できる。     田究を行う上での倫理について述べることができる。     研究内容に応じた方法の選択について述べることができる。     必要とする文献の入手方法がわかり、実践できる。     海習を通して文献の意味内容を理解し、活用する方法を実施できる。			

□	内容	\$	授業方法	課題/小テスト
	研究の意義・実践		講義	
1	クリティカルシンキング		演習	
	キーワード: EBP 研究方法			
	研究倫理		講義	
2	文献検索と検討			
	キーワード:倫理的原則			
3	量的研究の方法		講義	
3	キーワード:研究デザイン 標本抽出 分	分析方法	演習	
	質的研究の方法		講義	指定文献の検索・入手
4	質的研究の種類		演習	
	キーワード:質的研究におけるデータ 研	肝究デザイン		
5	文献クリティークとは			クリティーク個人ワークを
5	クリティークの実践①			行い臨む
6	クリティークの実践②			クリティーク個人ワークを
0				行い臨む
7	文献講読 演習		グループワーク	
8	レポート作成・提出			

使用テキスト	配布資料
参考書・資料等	講師より都度提示
この授業科目の前提と	看護学研究 助産学概論
なる主な科目	助産診断・技術学の科目群 助産管理
この授業科目から発展	
する主な科目	

成績評価の方法	課題提出 最終レポートにより評価
その他	後期の実習科目であり、演習は12月~1月に行います。そのため、冬休みを活用して主体的に
受講生への要望等	進める姿勢を求めます。

授業科目名	助産診断・技術学I 妊娠期			
実務経験講師	0	実務経験	医師、助産師	
開講年度	2022 年度	学 期	前期	
年 次	_	授業回数	23 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	近年、社会構造の変化や晩婚化等によりハイリスク妊婦が増加しています。また、医療の向上により合併症を持ちながらの妊娠が可能となっています。助産師として、妊婦・胎児が健康に経過し安心して出産を迎えられる支援が必要です。また、出産後のうつ病や虐待が増加している現状より妊娠中から妊婦や家族への心理的ケアやエンパワメントを行うことが必要となります。この科目を基盤に臨地実習において、助産師として必要な能力である妊婦や家族の心身の状態を診断し、支援する知識・技術を修得することを目的とする授業科目です。			
授業科目の到達目標	1.妊娠期の身体的・心理社会的変化について説明できる。     2.妊娠期に起こりうる異常とハイリスク・合併症が妊婦に与える影響について説明できる。     3.妊娠期の身体的・心理社会的変化の診断ができ、必要な支援を計画できる。     4.出産を迎え親になる妊婦や家族の心情が分かり、対象をエンパワメントするための支援について考えを述べることができる。     5.妊婦や家族が満足する出産の大切さに気づき、支持的支援について考えを述べることができる。     6.正常な妊娠経過を診査するための視診・聴診・触診・計測診の手技を修得する。			

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	1.助産診断・技術学の概要	講義	事前学習課題
	1)助産診断学とは		看護過程について
1	2)助産技術の概要		
_	3)助産診断学・助産技術学の理論構築に向けて		
	キーワード:助産過程 助産診断 ウェルネス型診断 助産実践過程		
	教材: テキスト①第1章		
	1.妊娠期の生理的変化	講義	事前学習
	1) 妊娠の概念 2)妊娠成立の機序		妊娠の機序と生理的変化の
2	3)妊娠の維持・胎児の成長		ワークシート
3	4)妊娠による母体の変化		
	キーワード:妊娠の成立 胎児 母体の変化		
	教材: テキスト①第2章		
	1.妊娠期の心理社会的変化	講義	事前学習
	1)妊娠の受容	演習	1)母性に関する諸理論
	2)ボディイメージの変化	ク <sup>*</sup> ルーフ <sup>*</sup> ワーク	2)妊娠経過における心理的変化
4	3)情緒的変化		グループワーク課題
5	4)パートナー・家族との関係		色々な状況の妊婦の心情を考える
5	5)診察を受ける妊婦の心理		
	キーワード:妊娠の受容 母親・父親役割意識 ボディイメージ		
	アイデ・ンティティ コーヒ゜ング・		
	教材: テキスト①第3章		
	1.妊婦の健康診査	講義	
6	1)妊婦の健康診査に必要な技術	演習	
7	(1)問診 (2)外診 (3)骨盤計測 (4)尿検査		
8	2)分娩予定日の算定		
	キーワード:レオポルド触診法 児頭骨盤不均衡(CPD)妊娠高		

	血圧症候群 ネーゲレ概算法		
	教材: テキスト①第5章		
	テキスト③第1章		
	1.胎児の健康診査	講義	
	1)胎児心音聴取	演習	
	2)分娩監視装置の装着		
9	3)胎児発育の評価		
10	4)技術確認		
	キーワード:NST CST 胎児発育不全 胎児機能不全		
	教材:テキスト①第5章 テキスト③第1章		
	1.妊娠期における検査・薬剤	講義	テキストを予習して講義に臨むこ
	1)周産期に用いられる検査法	<b>一件</b> 找	ノイストを丁目して研我に聞むこ
	超音波診断・分娩監視装置・その他		
	2)周産期に用いる薬剤		
11	// v=//• / v = 1000		
12	妊娠診断薬・各期に使用する薬物		
	キーワード:胎児発育不全 胎児機能不全 BPS		
	早期発見 早期治療 胎児への影響		
	教材: テキスト①第8章 P352~421		
	配布資料	=+tr ->-/-	
	1.超音波診断の技術	講義	
10	1)産科領域で用いられる超音波診断装置	演習	
13	2)超音波検査の実際		
14	キーワード:超音波ドプラ装置 超音波断層装置		
	装置の操作		
	教材: テキスト①第8章 テキスト③第2章	- # * +	
	1.日常生活状況・セルフケアに関するアセスメント	講義	
	1)妊婦・家族への助産師の関わり方		
15	2)妊娠期の日常生活行動の変化		
	3)母子健康手帳の活用		
	キーワード:生活指導 セルフケア 母子健康手帳		
	教材: テキスト①第5章	=#: <del>\</del> \	
	1.妊娠期の生活支援と保健指導のポイント	講義	
	1)栄養摂取と食生活行動	ク゛ルーフ゜ワーク 	
	2)正しい姿勢と日常生活動作		
16	3)移動・旅行・睡眠・休息		
17	4)排泄習慣・身体の清潔・衣服・靴		
	5)嗜好品・性生活		
	キーワード:ヘルスプロモーション セルフケア 妊娠貧血 体重増加		
	マイナートラブル 安産		
	教材:テキスト①第6章	=# <del>}</del>	
	1.出産準備の支援	講義	
	1)親役割の準備への支援		
	2)出産準備教育		
	(1)身体の準備 (2)物品の準備		
18	(3)出産施設と出産方法の選択		
	キーワード:育児 リラクセーション 呼吸法 バースプラン		
	里帰り出産		
	教材:テキスト①第6章		

20	1.妊娠期のマイナートラブルへの支援 1)悪心・嘔吐・胸やけ 2)下腹痛 3)腰背部痛 4)便秘・痔 5)膣分泌物増加 6)睡眠障害 7)下肢のけいれん 8)静脈瘤 9)浮腫 キーワード:マイナートラブ・ル セルフケア 異常との鑑別 教材:テキスト①第6章	講義	
	1.心理的・社会的ケア	講義	妊娠期の心理・社会的変化につい
	1)心理的変化への支援	へ。アワーク	て復習して講義に臨む
21	2)定期健診受診への支援		
22	3)社会資源の活用、就労に伴う支援		
	キーワード:ヘルスプロモーション 法律・制度		
	教材: テキスト①第6章		
23	単位認定試験 (助産師)		

① 助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1]妊娠期 第 6 版 医学書院   使用テキスト   ② 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会   ③ 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第 2 版 医学書院				
参考書・資料 等 マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院 今日の助産 改訂第3版 南江堂				
この授業科目の前提と	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 家族社会学 女性の心理学			
なる主な科目 女性の健康科学 助産師のコミュニケーション				
この授業科目から発展	助産診断・技術学 II 分娩期 IV産褥期 V新生児期・乳幼児期 VI母乳育児支援 地域母子保健			
する主な科目 助産診断・技術学実習 地域母子保健実習				
	筆記試験(単位認定試験) 80%			
成績評価の方法	レポート課題 10%			
	事例展開 10%			
その他	妊婦や家族への支援は、助産師として重要な役割の一つです。知識・技術をしっかり修得して、			
受講生への要望等 助産学実習で活用できるようにしましょう。				

授業科目名	助産診断・技術学 II 分娩期		
実務経験講師	0	実務経験	助産師、医師
開講年度	2022 年度	学 期	前期・後期
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	分娩期にある産婦および胎児の健康状態は、分娩進行により急速に変化します。 そのため、分娩進行に伴う身体的・心理的変化と胎児の健康状態の診断、正常な経過からの逸脱・ 異常を予測し予防するためのアセスメント能力が求められます。 分娩の生理・病態生理と正常からの逸脱を識別するために必要な知識と対象の身体的・精神的・ 社会的要素・家族も視野にいれた診断・アセスメントからよりよい援助を提供するための知識・ 技術を修得するための授業科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>分娩の生理が説明できる。</li> <li>分娩進行に伴う身体・心理的変化について説明できる。</li> <li>分娩期に起こりうる異常とハイリスク・合併症が産婦に与える影響について説明できる。</li> <li>分娩経過中の産婦と家族の心情を理解し、エンパワメントな支援が述べることができる。</li> <li>分娩期の身体的・心理的変化の診断ができ、必要な計画が立案できる。</li> <li>分娩期の健康診査に必要な診断技術(視診・聴診・触診・計測診・内診)が実施できる。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	1. 分娩の生理	講義	教科書を読んで予習する
	1) 分娩に関する定義	骨盤模型使用	
1	2)分娩3要素		
1	3) 胎児の産道通過		
	キーワード:娩出力 産道 胎児及び付属物 回旋		
	教材:①P4~27		
	1. 分娩の生理の理解	講義	前回の授業を復習して授業に臨む
	1) 正常な分娩経過	プリント使用	ワークシートの記載
	2) フリードマン曲線		
2	1) 分娩が母児に及ぼす影響		分娩の生理
3	キーワード:所要時間 経産婦 初産婦 分娩予測		小テストの実施
	フリードマン曲線 回旋 内診所見		(配点 10 点)
	循環 体重 児頭 応形機能		
	教材:①P4 P28~31 66~68		
	1. 分娩介助の目標と準備	講義	
4	1) 分娩介助の目標	グループワーク	ワークシートの記載
4	キーワード:分娩介助 意義 原理 安全		
	教材:①P88~94		
	1. 分娩期の心理・社会的変化	講義	教科書を読んで授業に臨む
	1)産婦の心理状態が分娩経過に及ぼす影響		
5	2) 分娩進行による産婦の心理状態の変化		
3	3) 家族の心理・社会的変化		
	キーワード:産痛 対処行動 リード理論		
	教材:①P80~85		
6	1. 分娩期の心理・社会的変化	グループワーク	課題レポート提出
	1) グループワーク		
7	1. 産婦の支援の基本	講義	
	1) 産痛緩和	演習	

	0 ) 卢上之 安劫		
	2)自由な姿勢		
	3)継続的サポート		
	4) 基本的ニーズの変化		
	キーワード:産痛 自由な姿勢 サポート 基本的ニーズ		
	教材:①P114~129		
	1. 分娩経過に沿ったケア	講義	教科書を読んで授業に臨む
8	1) 分娩の時期に応じたケア	演習	
	入院前 入院時		
	分娩第1期 分娩第2期 分娩第3期		
9	キーワード:分娩経過 主体性 五感 安全 安楽 援助		
	教材:①P130~145		
	分娩期に起こりえる医療事故とその防止	講義	配布資料を事前に読んで
10	キーワード:分娩期 医療事故 防止		授業に臨む
	教材:配布資料		
	分娩期の感染管理	講義	配布資料を事前に読んで
11	キーワード:分娩期 感染 管理		授業に臨む
	教材:配布資料		
	1. 分娩期のフィジカルアセスメント	講義	CTG の配布資料を読んで
	1)産婦の健康診査	DVD	授業に臨む
12	問診 視診 触診 計測診 聴診	(CTG 波形)	
	キーワード:問診 視診 触診 計測診 聴診		
	教材: ①P48~79		
	1 CTG の読解	講義	教科書を読んで授業に臨む
10	キーワード:胎児心拍数基線 細変動 一過性頻脈	演習	授業終了後、ワークシート記載
13	一過性徐脈 子宮収縮 胎児の健康状態		
	教材:①P68~72		
1.4	1. ガイドライン解説	講義	
14			
4 =	単位認定試験 助産師		
15			

	①助産学講座 7 助産診断・技術学 II 分娩期・産褥期 第 6 版 医学書院
  使用テキスト	②助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 医学書院
使用 / イ / ド	③産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産婦人科学会
	④マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院
	助産師基礎教育テキスト 分娩期の診断とケア 2020年 日本看護協会出版会
	病気がみえる⑩ 産科 第4版 メディカ出版
	根拠と事故防止からみた母性看護技術 第1版 医学書院
参考書・資料 等	助産師臨床テキスト 分娩 2016 メディカ出版
参方首・貝科   守	CG 動画でわかる!分娩のしくみと介助法 2016 メディカルビュー
	分娩介助学 第2版 医学書院
	図説 CTG テキスト 2016 メディカルビュー
	今日の助産 改訂第3版 南江堂
この授業科目の前提と	母性看護学 女性の心理学 助産学概論
なる主な科目	助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展	助産学概論 助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学IV産褥期
する主な科目	助産診断・技術学実習 助産管理実習
成績評価の方法	分娩3要素 小テスト10点 分娩期の心理・社会的変化の課題レポート提出10点
	単位認定試験 150 点

その他受講生への要望等

分娩3要素など、すでに習得している内容です。

母性看護学が基盤となるため、復習して授業に臨んで下さい。

また、助産診断・技術学実習に繋がる科目であり、予習・復習をしましょう。

助産師は正常か異常を判断し、分娩経過を正しく理解できる知識と必要な情報収集する能力が 求められています。

授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ 分娩期の助産技術		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学期	前期
年 次	_	授業回数	30 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	分娩期の助産技術は、マタニティケアを実践する上で中核ともいえる技術です。 助産師には分娩期にある産婦・胎児および新生児が正常な分娩経過をたどることができるように 支援する能力が求められます。産婦の主体性を引き出しながら、対象にとって安全で満足な分娩 を目指すために知識を活用しながら適切な態度で、助産師のわざを実践するための基盤を形作る 授業科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>正常分娩を介助するための基本的技術を修得できる</li> <li>分娩介助技術の一連の流れを手順通りに実施できる。</li> <li>分娩3要素と胎児の健康状態の知識を基盤とし、経過に応じた助産技術を実践するための関連づけができる。</li> <li>対象を尊重し、母児の安全を最優先にとらえ、助産師として責任ある態度を身につけることができる</li> </ol>		

	人 プラュール と 内谷		
回	内容	授業方法	課題/小テスト
	1. 分娩に向けた産婦と物品の準備・環境整備	講義	分娩介助手順、テキストを読んでイ
	1)分娩室の準備	演習	メージして臨む
	2) 分娩使用物品(分娩セット・滅菌物・新生児物品)		授業終了後、学びと課題を記載する。
1	3) 産婦・介助者の準備		
	4)間接介助者の役割		分娩室の環境を分娩介助手順に沿っ
	キーワード:環境 必要物品 産婦 直接介助者 間接介助者		て、復習する。
	教材:分娩介助手順P1~4 ②P193~195		
	1. 分娩の準備から外陰部消毒、分娩野の準備	講義	演習での学びを計画的に練習する。
	2. ガウンテクニック	演習	授業終了後、ワークシートを記載す
2	3. 分娩野の準備		る。
	キーワード:外陰部消毒 ガウンテクニック 分娩野		
	教材:分娩介助手順 P5~6		
3	分娩の準備から外陰部消毒、	演習	技術確認試験項目に沿って練習する
5	分娩野準備の技術確認演習		
4	分娩の準備から外陰部消毒、分娩野の技術確認試験	技術試験	試験終了後、ワークシート記載
4			
	分娩期の診断技術・フィジカルアセスメント		
	1.産婦の健康診査		
5	1)産婦および分娩経過を知るための診察技術①		
	問診・視診・触診・計測診・聴診		
9	2) 産婦および分娩経過を知るための診察技術②		
_	内診 所見からの予測		
	3) 分娩監視装置の装着および所見のよみとり		
	1.肛門保護・会陰保護から児娩出	講義	グループ編成により、
	1)産婦の観察	演習	演習での学びを計画的に練習する。
10	2) 肛門保護・会陰保護の目的・時期・手技		
10	3)後頭結節まで		分娩 3 要素を復習してから授業に臨
	4) 第3回旋介助		t
	5)第4回旋介助		

	( ) 巨田梅山久田		
	6)肩甲娩出介助		
	7)体幹娩出介助		授業終了後、ワークシート記載する。
	キーワード:肛門保護 会陰保護 後頭結節		
	第3回旋 第4回旋 肩甲娩出		
	教材:分娩介助手順 P7,9~15		
11	肛門保護~児娩出の技術確認	演習	技術確認試験のチェック項目に沿っ
12			て練習する
13	肛門保護~児娩出の技術確認試験	技術試験	試験終了後、評価表、ワークシート記
14			載する
	1. 出生直後の児のケアから産道診査	講義	演習での学びを計画的に練習する。
	1) 児娩出時刻	演習	
	2) 気道確保		技術確認試験のチェック項目に沿っ
	3) 臍帯結紮・切断		て練習する。
15	4)胎盤剥離徴候		
16	5)胎盤娩出介助 子宮収縮状態		   授業終了後、ワークシート記載する。
10	6) 産道診査		JANKA JEK / / / HBHA/ JO
	キーワード: 児娩出 気道確保 臍帯結紮 臍帯切断		
	胎盤剥離徴候 子宮収縮 産道診査		
	教材:分娩介助手順 P16~19		
17		++分=+胚	計略效之後 部庫主 ローカン 1 記
17	出生直後の児のケアから産道診査の技術確認試験	技術試験	試験終了後、評価表、ワークシート記
18			載する
	1. 胎盤・付属物の検査	講義	実習記録(分娩総括)に沿って記載す
	1)胎盤計測・観察項目	DVD	<b>ప</b>
10	2) 胎盤剥離徴候	演習	
19	3) 胎盤娩出		胎盤のビデオ視聴
20	キーワード:胎盤 卵膜 臍帯 胎内環境		
	臍帯動脈 臍帯静脈 胎盤剥離徴候		
	教材: ①P117~121		
	1. 分娩進行促進ケア	講義	導尿は基礎看護学で履修しているた
	1) 導尿	演習	め、方法について復習して臨むこと
	2) 人工破膜	( ) ( ) ( ) ( )	の、方法にラいて後目して聞むこと
21			
	2. 臍帯巻絡時の対応		
	キーワード:導尿 人工破膜 臍帯巻絡		
	教材:分娩介助手順 P8、9、13	20.36	
	1. 間接介助	講義	分娩介助手順を読んで
22	1)間接介助者の準備	演習	授業に臨む
23	2) 新生児蘇生・計測		新生児蘇生法の復習を
23	キーワード: 協働 連携 サポート		して臨む
	教材:分娩介助手順 P2~22		国家試験後に実施
	1. 呼吸法と努責の誘導	講義	
	1)深呼吸	DVD	
0.4	2)短息呼吸		
24	3) バルサルバ法		
	キーワード:深呼吸 バルサルバ法 短息呼吸		
	教材: ①P109		
25	総合技術確認	演習	最終技術確認試験に向けてチェック
25	ino ← tvv lij uhrho		項目に沿って練習する
			- スロで110 ノ NM 日 フ g
29			

30	総合技術確認試験	技術試験	評価表、ワークシート記載
----	----------	------	--------------

使用テキスト	①助産学講座 6 助産診断・技術学 II 分娩・産褥期 第 6 版 医学書院		
	②産婦人科診療ガイドライン 2020 日本産婦人科学会		
6 1	分娩介助学 第 2 版 医学書院		
参考書・資料等	助産師基礎教育テキスト 分娩期の診断とケア 2020 版 日本看護協会出版会		
	根拠と事故防止からみた母性看護技術 第1版 医学書院		
   この授業科目の前提と	基礎看護学  母性看護学		
なる主な科目	助産師のコミュニケーション 女性の心理学		
なる土な料日	助産診断・技術学Ⅱ 分娩期		
この授業科目から発展	助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV 産褥期		
	助産診断・技術学V新生児期		
する主な科目	助産診断・技術学実習		
	区切りごとの技術確認試験		
	終講時、総合技術確認試験 80 点		
成績評価の方法	筆記試験 20 点		
	区切りごとの合格⇒次の段階の実施		
	終講時試験の合格を助産診断・技術学実習開始の前提条件とする		
	分娩介助は医療行為のひとつであり、人命にかかわる重要な技術です。		
	臨地実習では実際に分娩介助を実施するため、練習を行うことは、助産学生の責務として必須で		
その他	   あり、演習においても常に緊張感をもって演習に臨んで下さい。練習以上のことは本番では発揮		
受講生への要望等	できません。		
	演習はファントームを用いますが、分娩進行中の産婦および胎児をイメージしながら産婦や家族		
	の心情に配慮できる、なおかつ安全な分娩介助ができるように取り組みましょう。		

授業科目名	助産診断・技術学IV 産褥期		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	出産を無事に終えた褥婦は新しい命の誕生という喜びと共に、自身の身体を回復させながら、 新生児を育んでいく役割が生じます。助産師として、褥婦の心身の健康水準を診断し、産褥期を より健康に過ごし育児を中心とする日常生活に適応できるように支援する能力が求められます。 更に、近年の出産の高齢化・少子化により育児への適応が困難な褥婦が増加に伴い、産後のメン タルヘルスが重要視されている中で、助産師は子育ての開始時期にある女性と家族に寄り添う ための視点とケアが求められます。 この科目を基盤に臨地実習において、助産師として必要な能力である褥婦や家族の心身の状態を 診断し、支援する知識・技術を修得することを目的とする授業科目です。		
授業科目の到達目標	1.産褥期の生理的・心理社会的変化について説明できる。 2.産褥期に起こりうる異常とハイリスク・合併症が褥婦に与える影響について説明できる。 3.産褥期の身体的・心理社会的変化の診断ができ、必要な支援を計画できる。 4.育児する褥婦の心情が分かり、対象をエンパワメントするための支援を述べられる。 5.新たな家族を迎えた家族の心情を推測でき、家族関係調整の必要性を述べられる。 6.正常な産褥期の経過を診査する視診・聴診・触診・計測診の手技を修得する。		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	1.産褥期の生理的変化	講義	事前学習:
	1)産褥の定義		母性看護学で既習した退行性変化と
1	2)退行性変化の機序と経過		進行性変化
1	3)進行性変化の機序と経過		
	キーワード:産褥期の全身の変化 子宮復古 乳汁分泌		
	教材: テキスト①第9章		
	1.産褥期の心理社会的変化	講義	事前学習:
	1)産褥期の心理的変化	ク゛ルーフ゜ワーク	母性看護学で既習した産褥期の心理的
	2)児の受容と愛着形成		変化
2	3)マタニティブルーズと産後うつ病		グループワーク課題:
	キーワード:愛着形成 マタニティブルーズ 産後うつ		褥婦の一般的な心理的変化を理解した
	教材: テキスト①第 10 章		上で、自分が出産した場合の心理的変
			化を話し合う
	1.産褥期の心理社会的変化	講義	グループワーク課題:
	4)児の愛着と親役割	ク゛ループ゜ ワーク	褥婦の一般的な心理的変化を理解した
3	5)家族の形成と社会的変化		上で、夫や家族への希望を話し合う
	キーワード:愛着形成 母親役割 父親役割		
	教材: テキスト①第 10 章		
	1.褥婦の健康診査(身体面の健康診査)	演習	事前学習(ワークシート):
	1)産褥期健康診査の意義		産褥期の生理的変化
	2)子宮復古状態の観察と測定		演習のチェックリストに基づいて手技を修得
4	3)悪露の観察		する
	4)乳房・乳頭の観察		事後課題:
	キーワード:子宮復古不全 乳房・乳頭のトラブル		演習での学びと課題
	教材:テキスト①第11章 テキスト④第IV章		

5	2.褥婦の健康診査(心理・社会面の健康診査) 1)バースレビュー (1)必要性(2)留意点(3)実施方法 2)産後うつの診査 (1)エジンバラ産後うつ病質問表(EPDS) (2)赤ちゃんへの気持ち質問表(ポンディング) 3.さまざまな状況の褥婦の心情を考える キーワード:バースレピュー EPDS 産後うつ病 教材:テキスト①第11章	演習 グループワーク	事前学習(ワークシート): 産褥期の心理的変化 出生直後の心理 マタニティブルーズ・産褥精神疾患 事後学習: ①演習での学びと課題 ②グループワークでの褥婦の心情のまとめ
6	<ol> <li>1.分娩後 2 時間の観察とケア</li> <li>1)分娩後 2 時間における母子の状態</li> <li>2)分娩第 4 期のケアの目標</li> <li>3)分娩第 4 期における観察と支援方法</li> <li>キーワード:子宮復古促進 異常出血 早期母子接触 教材:テキスト①第 5 章 分娩介助手順 P21~22</li> </ol>	溝義	
7	1.早期母子接触 1)早期母子接触の効果と留意点 2)新生児の健康状態のアセスメント 3)母親の健康状態のアセスメント 4)早期母子接触における観察と支援方法 キーワード:早期接触 愛着形成 初回授乳 教材:テキスト①第5章 DVD「産褥経過のアセスメントと支援 VOL1」	講義 DVD	事前学習: 出生直後の新生児の状態・母体の状態 を復習して臨む
8	1. 産後の経日的変化に応じた支援 1)日々変化する優先順位 2)退院までと その後を視野に入れた支援とは		
9	産後のメンタルヘルスケア 産後の女性の心理的変化 マタニティブルーズと産後うつ病 メンタルヘルスが重要視されている背景		
10	1. 褥婦の支援・産褥体操 1) 心身の安楽をはかるケア 2) 体力の回復をはかるケア 3) 産褥体操の目的と留意点 4) 産褥体操の実施 キーワード:子宮復古 身体の回復 教材: テキスト①第 12 章	講義演習	
11	1.育児行動取得への支援 1)母親役割・父親役割獲得への支援 2)育児技術の指導 3)育児に対する自信を高める指導 2.家庭・社会生活復帰への支援 1)退院指導 2)産後ケア事業と保育サービス キーワード:母親役割 父親役割 家族 育児 セルフケア 産後ケア事業 教材:テキスト①第 12 章	講義	

	1.産後ケア	講義	産褥期の心理・精神的な問題について
	1)産後ケアが必要とされる背景		復習して臨む
12	2)産後ケアの実際		
	キーワード:高齢出産 核家族 虐待 産後うつ		
	教材: テキスト①第 12 章		
	1.産後の家族計画の支援	講義	健康教育の技術「家族計画の指導」と
	1)産後の性生活		合わせて支援のあり方を考えること
	2)家族計画実施での配慮		
13	3)受胎調節の指導		
	キーワード:産後の生理的変化 家族計画		
	受胎調節		
	教材: テキスト①第 12 章		
14	単位認定試験		
14			

使用テキスト	① 助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2]分娩・産褥期 医学書院 ② 助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1]妊娠期 医学書院 ③ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会 ④ 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第 2 版 医学書院	
参考書・資料等	女性に寄り添う看護シリーズ メディカ出版 マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院 今日の助産 改訂第3版 南江堂 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 医学書院	
この授業科目の前提と なる主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 助産師のコミュニケーション 家族社会学 女性の心理学 女性の健康科学 助産診断・技術学 I 妊娠期 II 分娩期	
この授業科目から発展 する主な科目	助産診断・技術学V新生児期 母乳育児支援 助産診断・技術学実習 地域母子保健実習	
成績評価の方法	<ul><li>筆記試験(単位認定試験) 80%</li><li>レポート課題 10%</li><li>演習後課題 10%</li></ul>	
その他		

授業科目名	助産診断・助産学V 新生児期		
実務経験講師	0	○ 実務経験	
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	新生児の健康状態の診断、正常からの逸脱を識別するために必要な新生児および乳幼児の異常に関する基礎的な知識(疾患と病態)を学びます。加えて、新生児の成長と発達、およびその評価方法を学修します。また、家族と家族関係、母性・父性の心理的・社会的特徴を基盤として育児支援に必要な知識を学修します。 正常経過を逸脱、治療を要する新生児およびハイリスク新生児のアセスメントとケアとその後のフォローアップについて学ぶとともに、新生児蘇生法について知識と実技実践を学修します。		
授業科目の到達目標	新生児の身体的特徴および生理的特徴が説明できる     新生児の助産診断ができ、必要な支援を計画できる     正常経過を逸脱し治療を要するハイリスク新生児のアセスメントとケアを述べることができる     新生児の健康診査の内容と方法を理解し自施円の基盤となる手技を習得する     新生児蘇生法について知識と実技実践を修得する		

口	内容	授業方法	課題/小テスト
	1. 新生児の身体・生理的特徴	講義	母性看護学の新生児の生理と呼吸・
	1) 新生児の定義		循環動態の復習し、授業に臨む
	2) 身体的特徵		
1	3) 生理的特徵		
	4) 行動上の特徴		
	キーワード:新生児 適応生理 成長・発達 呼吸確立		
	教材:教科書①p2~32 配布資料		
	1. 正常経過逸脱状態にある新生児の診断	講義	
	1) 正常経過逸脱状態		
	呼吸障害 チアノーゼ 嘔吐・腹部膨満		
2	吐血・下血 痙攣 麻痺 発熱と低体温		
	心雑音 なんとなく元気がない		
	キーワード:病態・生理 診断・治療		
	新生児の正常と異常		
	教材:教科書①p33~47 配布資料		
	1. 新生児の健康審査	講義	正常と正常経過逸脱の状態を復習
	1) フィジカルアセスメント	演習	して臨む
	2) 触診・視診・計測診	DVD	演習には、新生児の健康診査の観察
3	2. 新生児の健康診査の演習		項目と正常値を理解し、演習に臨む
4	キーワード:フィジカルアセスメント 新生児の特徴		
	バイタルサインの正常と異常 原始反射		課題:新生児の健康診査における留
	教材:教科書④p185~202 配布資料		意点を整理し、まとめたものを提出
	DVD		する(講義後)
	1. 新生児の助産診断とケア(1)	講義	出生直後の新生児の観察・診断を復
	1) 生後 24 時間以内の新生児の診断とケア		習しておく
5	出生前の予測 出生直後の状態の評価と支援		
	異常の早期発見と支援 成長・発達の評価と支援		助産診断・技術学分娩期の出生直後
	2)早期新生児(生後7日目)の診断とケア		の時のケアについて読んで授業に

	胎外環境適応状態の評価 成長・発達の評価		臨む
	異常の早期発見と支援		· · · ·
	キーワード:胎児期 分娩侵襲 胎外環境適応		
	アプガースコア 全身の系統的観察		課題:授業後、出生直後の
	異常の早期発見の成熟度の家族関係形成		新生児の VS・観察について表にま
	保温 生理的体重減少 生理的黄疸		とめ提出する
	栄養・哺乳・退院後に向けた支援		
	教材: 教科書①p64~101 配布資料		
	1. 新生児の助産診断とケア (2)	講義	
	1) 退院から生後1か月までの新生児の診断とケア	HI 1 3-2	
	胎外環境と適応状態の評価と支援		
6	成長。発達の評価と支援 養育環境		
J	キーワード:胎外環境適応状態 清潔・保温・安全確保		
	栄養・哺乳 養育環境		
	教材: 教科書①p102~118 配布資料		
	1. 新生児の異常	講義	新生児異常について予習し授業に
	1) 新生児の異常徴候	門子孝久	臨む
	2) 新生児の疾患		нян С
7	キーワード:胎児発育異常 呼吸障害 チアノーゼと心不全		
	嘔吐と腹部膨満 新生児けいれん 病的黄疸他		
	教材: 教科書①p148~174 配布資料		
	1. 低出生体重児の病態と治療	講義	低出生体重児について予習し授業
	1) 低出生体重児の定義	門子子久	に臨む
	2) 低出生体重児の特徴		, min 2
8	3) 低出生体重児に起こりやすい合併症		
J	4) 予後		
	キーワード: 低出生体重児 合併症 予後		
	教材: 教科書①p192~213 配布資料		
	1. ハイリスク新生児の援助	講義	NICU について予習し授業に臨む
	1) ハイリスク因子のアセスメント		
	2) 援助の基本		
	3) 低出生体重児のケア		
	4) 治療を受ける新生児のケア		
9	5) 家族へのケア		
10	6) 新生児の急変時の判断と対応		
	7)NICU における看護		
	キーワード:ハイリスク NICU 蘇生 発育発達予後		
	母体搬送 新生児搬送 予防的ケア		
	家族への支援		
	教材: 教科書①p175~190 p214~225 配布資料		
	1. 乳幼児に起こりやすい疾患	講義	乳幼児に起こりやすい疾患につい
	1) 感染症		て予習し授業に臨む
	2) 発育障害		
11	3) 乳幼児突然死症候群		
	キーワード:ウイルス感染症 細菌感染症 予防接種 う歯		
	栄養障害 SIDS		
	教材: 教科書 p228~241 配布資料		
	1. 新生児蘇生法	講義	新生児蘇生法テキストを
12	1)新生児仮死の病態および評価		熟読し、巻末の問題を練習
	キーワード:予後フォロー 家族支援		した上で授業に臨む
		1	•

	教材: 教科書①p48~63 テキスト③		
	1. 新生児仮死と蘇生法	講義	新生児蘇生法テキストを熟読し、
	1) 蘇生のステップと新生児蘇生の実際	演習	巻末の問題を練習した上で授業に
10	(新生児蘇生 B コース認定講習)		臨む
13	キーワード:新生児仮死 無呼吸 蘇生		
	蘇生法アルゴリズム		講義開始直前にプレテスト実施あ
	NCPR ガイドライン		9 。
	教材:教科書①p48~63 テキスト③		講義後、認定試験実施となる。
1 -	単位認定試験		試験
15			

使用テキスト	①助産学講座 8 助産診断・技術学 II [3] 新生児・乳幼児期 第6版 2021 医学書院 ②助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期 第6版 2021 医学書院 ③新生児蘇生法テキスト 日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく 第3版 メジカルレビュー ④助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 2018 医学書院	
参考書・資料等	①助産師基礎教育テキスト [6] 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2020 日本看護協会出版会 ②助産師基礎教育テキスト [7] ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア 2020 日本看護協会出版会 ③UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 2009 医学書院 ④マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院 ⑤今日の助産 改訂第3版 南江堂	
この授業科目の前提と なる主な科目	母性看護学 小児看護学 助産師のコミュニケーション 助産診断・技術学 1 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV産褥期 助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習	
この授業科目から発展 する主な科目	助産診断・技術学 1 妊娠期 助産診断・技術学IV産褥期 地域母子保健	
成績評価の方法	筆記テスト(単位認定試験)100 点	
母性看護学で学んだ新生児の生理と呼吸・循環動態の予習をして講義に臨んでください。 その他 乳幼児の発育・発達と家族への支援を関連付けて学んでください。 受講生への要望等 新生児の観察技術を修得して演習に臨むことを望みます。 新生児蘇生 B コースについては認定資格修得に向けて努力してください。		

授業科目名	助産診断・技術学VI ハイリスクと異常		
実務経験講師	0	実務経験	医師、助産師
開講年度	2022 年度	学期	通年
年 次	_	授業回数	21回 + 試験2回(医師・助産師)
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	早産をはじめとする異常分娩や低出生体重児の出生などハイリスク妊産褥婦の割合は増加の一途をたどっている。助産師は正常(ローリスク)妊産褥婦の健康診査と保健指導を主要業務としているが、正常から逸脱した場合(ローリスク含む)、身体的・精神的・社会亭問題が複雑かつ深刻な状況下での助産診断の実施や、緊急時の初期対応および重症化の予防など専門的なケアが求められる。 この科目では、周産期各期におけるハイリスク〜異常に関する病態や医療管理について医師から、さらに、正常からの逸脱(ローリスク含)を判断し、異常を予測する臨床推論および診断、妊産褥婦が直面する状況に対する助産ケアや保健指導については助産師から、職種間の連携を前提に学習する。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>妊娠分娩産褥期の異常・ハイリスクについて、定義・病態・医療的管理について正常な状態と対比したうえで理解できる。</li> <li>正常を逸脱した場合(ローリスク含む)に対象者が受ける影響を推測し、助産師として身体的、精神的、社会的なケアを行うための過程(観察・判断・状況に合った対応)を説明することができる。</li> <li>対象が常に移行の中に存在することを念頭に、正常逸脱(ローリスク)の徴候やそれに気づくための臨床推論能力を身につけることの重要性を自覚することができる。</li> <li>複雑・深刻な状況に置かれる対象者や家族の心情を察し、倫理的な思考のもとに寄り添うことの必要性を述べることができる。</li> </ol>		

	内容	授業方法	課題/小テスト
	I. 妊娠期の異常	講義	
	1. 妊娠疾患		
	2. 妊娠持続期間異常		
1	3. 着床異常		
2	4. 胎児の異常		
	5. 子宮内胎児死亡		
	6. 胎児附属物の異常		
	キーワード:		
	テキスト① p82~120		
	Ⅱ.ハイリスク妊娠	講義	
3	1. 偶発合併妊娠		
	2. 母子感染症		
4	キーワード:		
	テキスト① p121~145		
	Ⅲ. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のアセスメントとケア	講義	
5	1. アセスメント		
	2. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援		
6	キーワード:ハイリスク因子 緊急時の対応		
7	職種間連携 保健指導		
	テキスト① p 296~ p 349		

8	IV. 分娩期の異常・偶発疾患 1. 分娩の3要素の異常 2. 分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症	講義	
9	キーワード: テキスト② p148~p161		
10 11	V. 産科手術および産科的医療処置 1. 産科手術の準備 2. 産科手術および産科医療処置の各論 3. 産科麻酔 キーワード:	講義	
12 13	テキスト② p 176~ p 211  VI. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援  1. アセスメント  2. 産婦への支援	講義	
14	VII. 産褥期の異常・偶発疾患 1. 産褥期に起こる身体的な問題	講義	
15	<ul><li>IX. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援</li><li>1. アセスメント</li><li>2. ハイリスク・異常褥婦への支援</li></ul>	講義	
16 17 18 19	X. 特殊な状況にある褥婦への支援 1. 帝王切開による分娩を行った褥婦 2. 多胎分娩 3. 健康上の問題のある児をもつ褥婦 4. 産褥早期に児を亡くした褥婦	講義	
20 21	XI. 会陰切開および裂傷後の縫合	演習	
22	単位認定試験 ①医師		
23	単位認定試験 ②助産師		

使用テキスト	①助産学講座 6 助産診断・技術学 2 [1] 妊娠期 医学書院		
	②助産学講座7 助産診断・技術学2 [2] 分娩期・産褥期 医学書院		
参考書・資料等	産婦人科診療ガイドライン 2020		
少为首·貝科寺	今日の助産 第3版		
この授業科目の前提と なる主な科目	解剖生理学 薬理学 母性看護学 女性の健康科学 助産学概論		
	助産師のコミュニケーション		
	助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV 産褥期		
この授業科目から発展	助産学実習		
する主な科目			
は体証体の大法	筆記試験 ①医師の範囲:1 回 100 点		
成績評価の方法	②助産師の範囲:1 回 100 点		
	周産期は、正常と異常が隣り合う変化の激しい時期です。わずかな徴候に気づけるか気づけない		
	か(臨床推論)そばにいる助産師の知識と診断能力に委ねられます。		
その他	この科目で学ぶことは実習を始めとし、将来臨床実践に携わる上で身につけておいてほしいハイ		
受講生への要望等	生への要望等 リスクと異常に関する基礎的事項です。		
	正常な経過や生理的変化の知識をベースに、正常からの逸脱を判断し、異常を予測する臨床推論		
	ができる能力を身につけるために、計画的に学習することを望みます。		

授業科目名	助産過程の展開		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学期	前期・後期
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	問題解決思考をベースとした思考過程を用いることで、対象の個別性や状況に応じた助産ケアを 実践する道筋が作れます。助産師としての役割を遂行するために、各期の対象の特性をイメージ し、アセスメント〜評価までの思考を言語化する訓練を行う科目です。また、この科目では、 助産過程を用いて実践に即したシミュレーション学習も行います。		
授業科目の到達目標	1.助産ケアを実践するための助産過程の概要を説明できる。 2.対象の特性と助産診断類型を踏まえた情報収集の視点や方法が説明できる。 3.診断の前提となる情報の解釈の視点がわかり、分析したことを言語化できる。 4.各期の助産診断の特徴がわかり、ガイドブックを用いた診断ができる。 5.対象理解、現状分析、助産診断に基づき一貫性のある目標と、優先順位を加味した具体策が立案できる。 6.助産師の役割を前提とした実施・評価の視点が説明できる。 7.助産過程のプロセスを用いてポイントを押えた記述ができる(演習)。 8.臨床場面に即した状況の中で、既習の知識技術を用いて、シミュレーションが実践できる。		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
1	1.助産過程とは	講義	
	2.助産師の役割と助産過程	演習	
	3.助産診断の特徴と診断類型		
	4. 看護過程と助産過程		
	キーワード:助産師 マタニティヘルスケア		
	配布資料:助産過程展開のためのガイドライン		
	1.アセスメント~診断のプロセス	講義	
	1) 情報収集 対象を理解することの重要性	演習	
2	2)情報の整理・分析・解釈		
	基礎情報 情報収集のポイント		
	配布資料:助産過程展開のためのガイドライン		
	2. 診断~計画(目標)のプロセス	講義	
	1)マタニティ診断	演習	
	経過診断/健康生活診断 診断上のルール		
	アセスメント一診断の関係性		
3	2)計画のプロセス		
	状況に応じた目標設定とは		
	アセスメントと目標の関係性		
	3.計画(具体策)~評価のプロセス		
	配布資料:助産過程展開のためのガイドライン		
	今日の助産 第3版		
	4. 実施のプロセス	講義	
4	5. 評価のプロセス	演習	
4	助産実践における評価の視点		
	配布資料:助産過程展開のためのガイドライン		
5	1.産褥期の事例展開	講義	
6	1)事例紹介	ク゛ルーフ゜ワーク	

7	2)事例の情報整理・分析		
8	3)産褥期の助産診断		
	4)産褥期の計画立案		
	5)グループワーク発表		
	6)産褥期助産過程のまとめ		
9	1.妊娠期の事例展開	講義	
	1)事例紹介	ク゛ルーフ゜ワーク	
	2)事例の情報整理・分析		
	3)妊娠期の助産診断		
11	4)妊娠期の計画立案		
	5)妊娠期助産過程の要点の整理		
	1.分娩期の事例展開	演習	
	1)事例紹介		
12	2)事例の情報整理・分析		
13	3)妊娠期の助産診断		
	4)妊娠期の計画立案		
	5)妊娠期助産過程の要点の整理		
14	シミュレーション学習	演習	事前学習(ワークシート)
	1)産褥期の異常場面をシミュレーショして対応を考える	ク゛ルーフ゜ワーク	妊婦の心理
	(1)場面説明 (2)シミュレーション (3)デブリーフィング		正常分娩の経過分娩
	キーワード:助産師のコアコンピテンシー 産褥期異常		各期の健康診査
	1.実践からの助産過程 パワーアップ		
15	2)実施・評価について		
	キーワード:ケア計画 問題指向型診療記録 事後評価		
	教材: テキスト①第 11 章 テキスト②第 1 章		
	助産過程展開のためのガイドライン		

-	
使用テキスト	① 助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2]分娩・産褥期 医学書院
	② 助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1]妊娠期 医学書院
	③ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会
	④ 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院
	女性に寄り添う看護シリーズ メディカ出版
参考書・資料 等	マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院
一	今日の助産 改訂第3版 南江堂
	助産過程展開のためのガイドライン(配布資料)
この授業科目の前提と なる主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 家族社会学 女性の心理学
	女性の健康科学 助産診断・技術学 I 妊娠期 II 分娩期 IV産褥期
	助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展	助産診断・技術学実習
する主な科目	
	レポート課題 15%
	演習後課題 15%
成績評価の方法	事例展開 20% × 3期(演習成果 および 提出状況)
	リアクションシート 10%
その他	助産過程は助産師としての役割を果たす上で欠かすことのできない思考過程です。
	看護過程をベースに、対象の特性を踏まえた助産師の視点やケア実践のために、自ら考え、実践
受講生への要望等	したことに責任をもって振り返るまでの過程を身につけてほしいと願っています。
	·

授業科目名	母乳育児支援		
実務経験講師	○ 実務経験 助産師、保健師		助産師、保健師
開講年度	2022 年	学 期	通年
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	子育てにおいて母乳育児は、始まりの時期も継続期も、女性にとってあたたかく、適切な支援が 必要となる場面です。価値観や生活が多様化する中で、子を育てる上での栄養方法に対する考え 方も様々であり、妊娠中から、卒乳に至るまで、対象のニーズに寄り添いながら情報提供を行い には、科学的根拠に基づく知識と、それを伝えるコミュニケーションスキルが不可欠です。 この科目では、国際認定ラクテーションコンサルタントによる「母乳育児支援基礎セミナー」を 受講することで、母乳育児支援に携わる上での心構え、知識・技術・態度を身につけ、対象を エンパワメントしながら、必要な支援を実施する支援者に近づくための基礎を学びます。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>母乳と母乳育児について、意義と重要性について根拠に用いて説明ができる。</li> <li>「母乳育児成功のための 10 カ条」の意義と内容について列挙できる</li> <li>母乳育児支援の実践とエンパワメントの関連性について述べることができる</li> <li>「聴く」「共感する」「支える」「情報提供」のコミュニケーション技法を演習において実行できる。</li> <li>母乳育児支援に携わる助産師としての責任と役割について自覚することができる。</li> <li>講義終了後も、自己研鑽を重ねる意義を見つけ出すことができる。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	母乳育児支援基礎セミナーガイダンス	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	世界の母乳育児の潮流		
1	赤ちゃんにやさしい病院運動		
	キーワード:母乳育児支援のための 10 か条 BFHI		
	テキスト: p31~42		
	母乳育児支援に必要なコミュニケーションスキル	主に演習	基礎看護学コミュニケーションに
2	話を聴く エンパワメントする	ロールプレイ等	ついて復習の上臨む
	キーワード:エモーショナルサポート 共感		
	テキスト: p 43~68		
	妊娠中の母乳育児の推進	講義	セッション終了後、なぜ母乳だけ
	母乳育児に対する意識 乳房・乳頭の手入れ	演習	で育てることが大切なのか
3	特別な配慮が必要な場合の支援	モデルを招いた	言語化する
	キーワード:出産前教育 出産前チェックリスト	インタビュー	
	テキスト: p 69~98		
	母乳育児の保護	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	乳児の栄養におけるマーケティングの影響		
4	母乳代用品に関する世界基準		
	災害時の支援		
	キーワード: 母乳代用品 国際基準 利益相反 災害時の寄付		
	テキスト: p 99~111	2# 24 V5 77	
	出産の実践と母乳育児	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	分娩が早期の母乳育児に及ぼす影響		
_	早期母子接触の重要性		
5	帝王切開後の母乳育児支援		
	キーワート':自己効力感 主体的な出産 早期接触		
	初回授乳 出生後の母子分離		
	テキスト: p 113~129		

	日本中10.14.15.14.15.15.15.15.15.15.15.15.15.15.15.15.15.	±# <del>&gt;</del> 4	
	母乳育児を成功に導くための基礎知識	講義	乳房の解剖生理
	赤ちゃんが乳汁を飲みとる仕組み	乳房模型、人形を用い	進行性変化について復習の
	乳汁産生のしくみ	た演習	上臨む
_	乳房各部位の名称と機能		
6	乳房のケア		
	適切な吸着とアセスメント		
	キーワート: 生理的変化 内分泌 効果的な哺乳		
	テキスト: p 131~142	-77- > 6	
	直接授乳の援助	講義	
	授乳姿勢のアセスメントと支援	乳房模型、人形を用い	
7	ハンズオフによる説明	た演習	
/	吸着困難な場合の支援		
	キーワード:ポジショニング ラッチオン 授乳姿勢		
	テキスト:p 143~167		
	授乳の観察と援助	授乳支援の実習	
		以北久坂の大百	
8	コミュニケーションスキルを用いた支援の実際		
	キーワード:母乳育児観察用紙 エンパワメント		
	テキスト: p 169~173		
	母乳育児支援のための具体的な方法	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	母児同室の推進 赤ちゃん主導の授乳とは		
9	母乳以外の栄養や水分を補足する危険性		
	キーワード:添い寝 空腹のサイン 乳頭混乱		
	テキスト: p175~190		
	母乳の分泌 母乳不足についての心配	 講義・演習	テキスト該当範囲を精読
		一	/ イヘト該当単四で相が
10	正常な成長パターンと支援 哺乳量と母乳産生の改善		
	キーワード:母乳不足感 体重増加 吸着の改善		
	テキスト: p 191~204		
	特別な援助が必要な赤ちゃん	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	早産・低出生体重で生まれた赤ちゃんへの支援		
11	母乳以外の栄養を必要とする医学的理由		
11	キーワード:NICU 経口摂取 母親への配慮 双子		
	搾母乳 生理的黄疸 口唇・口蓋裂		
	デキスト: p 205~221		
	直接授乳できない場合の支援	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
		們我 <sup>*</sup>   假日	/ 1/1 1水二型四で作派
10	搾乳方法と支援(手による搾乳 搾乳器)		
12	搾母乳の飲ませ方		
	キーワード:カップ授乳 母乳の保管 母乳銀行		
	テキスト: p 223~233		
	乳房と乳頭の形状・病変 乳房と乳頭の観察	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	乳房緊満と乳腺炎、乳頭痛の原因・予防・援助		
13	キーワード:乳房緊満 乳腺炎 乳頭痛 乳管閉塞		
	陥没乳頭 カンジダ感染症		
	テキスト: p 243~269		
	•	等表 冷型	ニナッ1 三大 小 <i>年</i> 田 ナ ルキニナ
	母親の健康と母乳育児	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
	母乳育児と栄養ニーズ 母親の病気と母乳育児支援		
14	妊娠間隔と母乳育児		
	キーワード:母乳育児を続ける利点 母乳と薬剤		
	テキスト: p 283~294		
	母親への継続的な支援	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
15	赤ちゃんにやさしい病院(BFHI)の実践		
13	キーワート・・・退院時の支援 ピアサポート 職場復帰 BFHI		
	□/□・咫汎呵ツ乂ly □/ッ゚□ 戦物復佈 DfПl		

テキスト: p 283~339

使用テキスト	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシックコース 「母乳育児成功のための 10 カ条」の実践;医学書院
参考書・資料等	セミナーにおいて講師から紹介
この授業科目の前提と	基礎看護学 母性看護学
なる主な科目	助産学概論 助産診断・技術学の科目群
この授業科目から発展	助産学実習
する主な科目	
式建製体の大法	出席状況と各回アクションシート
成績評価の方法	最終レポートで評価する
	5~7月 10月 12月の時期に、1日4コマを4日間実施するセミナー形式の授業です。
その他	集中講義となりますので、休まないようにしてください。
受講生への要望等	出席時間数に応じて、国際認定試験を受験するための教育単位を取得することができます。
	乳房模型と人形を各自準備します。各回の順序は講師の組み立てで入れ替わります(初回提示)。

授業科目名	助産師のコミュニケーション		
実務経験講師	0	実務経験	公認心理士、助産師
開講年度	令和 4 年度	学期	通年
年 次	1年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	助産実践を行う前提に、対象者や共に働く医療者との距離を近づけ、実践を受け入れてもらえるような関係の構築が必要となります。身体的・心理的・社会的に揺れ動く時期にある対象の特性を踏まえ、対象を包括的に理解しながら相談に応じ、意思決定支援を行うためには「聴く力」「共感する力」「対象の感情を感じとる力」「対象のプラスの力に気づき、寄り添える力」「助産師としての思いや考えをアサーティブに発信する力」が必要となります。また、対象が直面する困難に対して、支援する助産師が対象の力を知り、その力を信じて、対象者自身が自己効力感を伴った意思決定や問題解決を行う能力を獲得できるよう促すエンパワメントは、助産実践の場面のいたるところで求められる不可欠の技術となります。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>助産師に求められるコミュニケーションについて理解し、対象との関係を築くことが助産 実践の前提となることを説明できる。</li> <li>「聴き方」「共感」について演習を通して経験し、対象者と関わる上で不可欠の技術である ことを説明できる。</li> <li>助産の対象がエンパワー(支援)をうける必要がある場面を想起し、かかわりのポイトや 方法を考えたうえで説明できる。</li> <li>対象者の自己決定を支援するための、助産師としての相談・カウンセリングに必要な技術を 経験し、修得するための始点として位置付ける。</li> <li>対象の内なる力(強み・持ち味・潜在意識、資源)に働きかける方法・態度を、演習を通し て経験し、実践の基盤に加えることができる。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
1	ガイダンス	講義	
1	対象の特性から助産師に求められるコミュニケーションとは		
2	助産実践とエンパワー	講義	
	対象が自分の力に気づくことの意義		
3	カウンセリングの基礎①	講義	
3	対象を理解するために傾聴するとは	演習	
4	カウンセリングの基礎②	講義	
4	共感するとは	演習	
5	カウンセリングの技術 演習	演習	
3			
6	自分も相手も尊重したコミュニケーションとは	講義	
0		演習	
7	エンパワメントの考え方と実践の要件	講義	事前課題あり
8		演習	
9	勇気づけの技術	講義	事前課題あり
10		演習	
11	支援を成立する	講義	事前課題あり
12		演習	
13	臨床場面で助産師が求められる対応とは	講義	
13		演習	

14	女性中心のケアに基づく個別の対象とのコミュニケーション	講義演習	
15	単位認定試験		

使用テキスト	助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院
使用ナイスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院
<b>女</b> 妻 次 以 ケ	配布資料
参考書・資料等	
この授業科目の前提と	基礎看護学 (コミュニケーション)
なる主な科目	助産学概論 女性の心理学 助産診断・技術学
この授業科目から発展	助産診断・技術学の科目群 母乳育児支援
する主な科目	健康教育の技術
	筆記試験 50%
成績評価の方法	レポート 20%
	演習 30%
その他	対象との関係を築く上でリードするのは助産師です。心情や状況をくみ取りながら、ニードに寄
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	り添った支援を行うには、まずそばにいることを受け入れてもらうための姿勢が求められます。
受講生への要望等	この科目では演習を行いながら、助産師として必要なコミュニケーションの基礎を学びます。

授業科目名	健康教育の技術		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年	学 期	通年
年 次	_	授業回数	23 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	この授業科目では助産師にとって主要な役割のひとつである健康教育・相談技術について学修します。健康教育は対象の意識・行動変容を促す目的があり、高いコミュニケーション能力が求められます。この科目で学ぶ基盤には助産師として対象をエンパワーしながら、意思決定に寄り添うための関係性の構築が含まれており、学習者として自己研鑽を続けることを意識しながら、実践の場で活用できる技術を身につけてほしいと考えています。また、この授業科目では演習としてリプロダクティブへルスに関する課題を焦点化し、グループでの健康教育の企画運営の実践を行います。「伝えたいこと」は何かを明確にした上で、なぜこのクラスを実施するのか、対象にどのように変容を促すのか、その方法はなど、企画を通して、一貫性のある健康教育のプログラムの技術と、人に伝えるための技法についても、体験を通して身につけて行きます。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>助産師として健康教育を行う意義・目的・目標について説明できる。</li> <li>効果的な健康教育を実施するための企画・運営のプロセスを演習を通して実践できる。</li> <li>個別指導における自己決定支援のあり方について考察し、体得する手がかりができる。</li> <li>専門職として「伝える」ことの責任を自覚し、役割を果たすための自己研鑽の必要性を言語化できる。</li> <li>健康教育の企画運営を通して、メンバー間での連携・協働ができる。</li> </ol>		

	内 容	授業方法	課題/小テスト
	ガイダンス	講義	
	健康教育とは		
1	健康教育の定義 ヘルスプロモーション		
	健康教育の目的・目標、対象と場		
	キーワード:健康 行動変容モデル エンパワメント		
	相談・教育活動の技術	講義	
	教育と学習の理論 健康教育の理論		
2	相談技術		
	相談・教育技術の実際		
	キーワード:カウンセリング 意思決定支援 アサーティブネス		
3	相談・教育活動の実際	講義	
_	個人へのアプローチ 集団へのアプローチ		
4	キーワード:集団指導 個別指導		
	健康教育の展開	講義	
5	プログラムの企画・実施・評価		
5	健康教育の演習① ガイダンス		
	キーワード:企画書 リプロダクティブヘルス テーマ設定		
6	健康教育の演習②③ 指導計画書の作成	グループワーク	適宜教員と確認
7	キーワード:テーマ 対象 目的・目標		
0	健康教育の演習④ 情報を集める	グループワーク	適宜教員と確認
8		文献検索	
9	健康教育の演習⑤~⑨ 指導計画書の作成	グループワーク	適宜教員と確認
	教材の検討		
13	キーワード:順序性 時間配分		

	実践のプロセス(クラスリハーサル)		
14	ディスカッション		
15	修正ポイントの明確化と計画案		
	キーワード:媒体 プレゼンテーション		
16	実践のプロセス(本番)	プ゜レセ゛ソテーション	
20	キーワード:実践技術 リフレクション		
21	出産準備教育	講義・演習	
	目的 出産に向けた準備の		
	キーワード:出産(育児)準備教室 パースプラン 心身の準備		
22	親役割 主体性		
23	単位認定試験		
23			

使用テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院
参考書・資料等	
この授業科目の前提と なる主な科目	教育学 心理学 社会学 公衆衛生学 人間関係論 看護学概論 基礎看護学 助産学概論 助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学IV 産褥期 助産診断・技術学 V 新生児期 助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展 する主な科目	母乳育児支援 助産学実習
成績評価の方法	<ul><li>筆記試験 40点(赤坂 30点 齋川 10点)</li><li>演 習 50点(参加態度 10点 グループでの計画書作成 30点</li></ul>
その他受講生への要望等	演習 (グループワーク) が主体の科目です。グループの一員としての自覚を持ち、参加することを 望みます。

授業科目名	地域母子保健		
実務経験講師	0	実務経験	助産師、保健師
開講年度	2022 年度	学期	通年
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	助産の対象は地域での生活の中で子育てを行います。この科目では、安心できる子育てを実現するために、助産師として必要な母子保健制度について現状と課題を理解し、母子保健活動の視点や意義・仕組み・活動の実際を学習します。また、助産師の活動が求められる地域でのピアサポートや国際支援、災害の場における母子保健実践活動についても、事例を用いるなどして理解を深めます。 また、地域で生活する生後4か月程度の母子について学びます。		
授業科目の到達目標	1. 地域母子保健を理解し意義を説明できる 2. 母子保健の現状と動向を理解し説明できる 3. 地域母子保健活動の展開方法を理解し説明できる 4. 正常経過にある乳幼児の特徴と家族への支援が述べることができる 5. 地域で生活する生後4か月ごろまでの乳幼児の診察・健康診査について理解できる。 6. 国際母子保健について理解し説明できる 7. 地域母子保健と助産師活動のあり方について考察できる 8. 多職種と連携・協働しながら包括的に子育て世代を支援する必要性と方法について演習での学びを通して説明できる		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	地域母子保健の意義	講義	
	地域の概念 地域の特性と地域母子保健		
	地域母子保健活動の意義		
1	キーワード:コミュニティ 生活圏 母子保健活動の場		
	妊娠から出産 子育て 疾病と事故を予防		
	ネットワーク		
	教材: 教科書 p2~16		
	母子保健の現状と動向	講義	母子保健にかかわる統計につい
	統計資料の分析		て、どのような項目が関係するか
2	母子保健をめぐる諸問題と課題		予習し授業に臨む
۷	キーワード:人口動態計 母体保護統計 人口構造		
	育児環境の変化 医療環境の変化		
	教材: 教科書 p18~33		
	わが国の母子保健行政	講義	授業後、国・都道府県・市町村の
	母子保健行政の進展 母子保健関係法規		役割について復習する
3	国・都道府県・市町村の役割		
	キーワード:母子保健法 児童福祉法 国 都道府県 市町村		
	教材: 教科書 p36~47		
	わが国のおもな母子保健制度	講義	母子保健制度について復習し授
	母子保健制度の概要		業に臨む
4	健康診査 保健指導 療養援護 医療対策		
4	予防接種 不妊 ひとり親家庭の支援		
	キーワード:妊婦健康診査 乳幼児健康診査		
	妊娠届出と母子健康手帳交付		

訪問指導 予防接種法 自立支援 教材:教科書 p48~77 わが国の母子保健施策 健康日本 21 と健やか親子 21 少子化対策と次世代育成支援 講義 健康日本 21 と健やか の違いについて理解	却フ 21 )を
わが国の母子保健施策講義健康日本 21 と健やか健康日本 21 と健やか親子 21ついて、第 1 次と第	却フ 91 )ヶ
健康日本 21 と健やか親子 21 ついて、第 1 次と第	和十 $Z$ $L$ $L$
フェエスロペスペス 思エンロルと 1/2	
市町村母子保健計画の推進	JONE : PAR
地域母子保健活動の基盤	
5 関係機関との連携	
地域母子保健ニーズの把握と施策化	
キーワード:健康日本 21 (第 2 次) 健やか親子 21 (第 2 次)	
子ども・子育て応援プラン	
行政 民間組織 連携 母子保健事業	
教材: 教科書 p78~108 p110~131	
地域母子保健活動の展開(1) 講義	
女性ライフサイクルへの支援	
母子保健活動を展開する場と特徴	
6 キーワード:幼児期・学童期 思春期 成熟期 更年期	
助産所 病院・診療所 産後ケア施設	
市町村母子健康包括支援センター	
教材: 教科書 p134~152	
地域母子保健活動の展開(2) - 訪問指導① 講義	
妊婦訪問指導の理論と実際	
7 新生児訪問指導の理論と実際	
キーワード: 訪問指導の現状 目的・対象 訪問指導の実際	
教材: 教科書 p145~180	
国際母子保健 講義 日本国内の現状と諸領	外国の母子
諸外国の母子保健活動 保健の違いについて、	自分の考え
海外在住日本人の母子保健を持って授業に参加す	- る
8 在日外国人の母子保健	
9 キーワード:現状と課題 発展途上国 母子の健康問題	
海外出産 在日外国人	
教材: 教科書 p216~253	
1. 乳幼児の特徴と成長・発達 講義	
1)乳幼児の定義 演習	
2) 身体的特徴・生理的特徴・社会的特徴	
3)乳幼児の成長・発達と評価	
10   4) 予防接種	
キーワード:乳幼児 成長・発達 個別性 養育者	
教材:教科書①p120~145	
配布資料 マタニティ診断ガイドブック	
1. 正常な経過にある乳幼児の援助 講義	
1) 発達を促進するケア	
2) 社会性を促進するケア	
3) 起こりやすい事故の予防と対策	
4) 起こりやすい疾病の予防的ケア	
11 5) 家族へのケア	
キーワード:乳幼児期の発育・発達 心身の問題 児の行動	
母子関係 生活習慣の確立 家族	
事故(交通事故 窒息 溺死・溺水 転倒・転落	
誤飲)	

	教材: 教科書①p120~145	
	配布資料	
	1. 乳幼児の健康診査(1)	講義
	1) 乳幼児健康診査の変遷	III 14X
12	2) 乳幼児健康診査の目的と意義	
12	2) 孔幼先健康診査の日的と思報   キーワード:乳幼児の成長・発達 養育者の支援 個別性	
	教材:配布資料	
	1. 乳幼児の健康診査(2)	講義
	1) 乳幼児健診の実際	
	1ヶ月児健康診査 4ヶ月児健康診査	
	1歳6ヶ月児健康診査 3歳児健康診査	
13	2)健康診査と事後フォロー	
	3) 育児支援としての健康診査	
	4) 保健師との連携	
	キーワード:乳幼児期の発育・発達 心身の問題 児の行動	
	母子関係 保健指導(集団・個別)	
	教材:配布資料	
	1. ハイリスク乳幼児への援助	グループワー
	1) 援助の基本となること	7
	2) 精神・運動発達遅滞がある児へのケア	
14	3)先天奇形・先天異常がある児へのケア	
	4) 低出生体重で出生した乳幼児へのケア	
15	5) 特殊な状況にある乳幼児へのケア	
	   キーワード:予後フォロー 家族支援	
	│   教材:教科書 p242~251	
	配布資料	
4 =	終講試験	
15		

	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 (医学書院)
使用テキスト	わが国の母子保健(公益財団法人 母子衛生研究会)
参考書・資料等	国民衛生の動向
	母性看護学
	看護の統合
この授業科目の前提と	助産学概論
なる主な科目	助産診断・技術学Ⅱ 妊娠期
	助産診断・技術学IV 産褥期
	助産診断・技術学V 新生児期
この授業科目から発展	地域母子保健実習
する主な科目	
成績評価の方法	終講試験
その他	母子とその家族のしあわせは地域に支えられています。地域の中での出産・子育てについて
受講生への要望等	広く学ぶと同時に、母子やその家族を支える仕組み作りについて考察してみましょう。
又明エハの女皇守	自分の住んでいる国・都道府県・市町村の地域に関心を持って授業に参加して下さい。

授業科目名	助産管理		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年	学期	後期
年 次	_	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	助産師は業務範囲や法的責任などの助産管理の基本知識、助産マネジメントの能力が求められます。助産管理の基本概念、助産師の業務管理、周産期管理システムの運用を学習します。 また、病院・助産所などの助産の行われる場における管理と地域連携システム、周産期の医療事故や災害発生と助産業務などの助産師の危機管理を学習する授業科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>助産管理の基本概念について説明できる。</li> <li>周産期医療システムの運用と地域連携、助産の果たす役割について述べられる。</li> <li>医療保険制度と母子に対する社会保障制度が説明できる。</li> <li>助産業務に関する法規が説明できる。</li> <li>病院・助産所の業務管理・運営と助産師の役割について説明できる。</li> </ol>		

□	内 容	授業方法	課題/小テスト
1 2	<ol> <li>助産管理の基本と助産業務管理</li> <li>助産管理の基本と助産業務管理の過程</li> <li>助産業務管理と医療経済</li> <li>キーワード:助産管理 マネジメント 助産業務 診療報酬 教材:①P2~9 27~33</li> </ol>	講義	教科書を読んで授業に臨む
3 4	<ol> <li>助産管理の基本</li> <li>助産業務管理の方法</li> <li>キーワード:助産管理 組織管理 院内助産管理 外来の助産管理</li> <li>教材:①P10~26</li> </ol>	講義	教科書を読んで授業に臨む
5 6	<ol> <li>関係法規と助産師の義務・責任</li> <li>関法規</li> <li>助産師の法的責任と義務</li> <li>キーワード:助産業務 法律 法的責任 義務 教材:①P36~70</li> </ol>	講義	教科書を読んで授業に臨む
7 8	<ol> <li>周産期医療体制と地域連携</li> <li>1) 周産期医療体制</li> <li>2) チーム医療と職種間・地域の連携</li> <li>キーワード: NICU 母体搬送 オープンシステム</li> <li>教材: ①P72~91</li> </ol>	講義	教科書を読んで授業に臨む
9 10 11	<ol> <li>周産期管理システムとリスクマネジメント</li> <li>周産期の医療事故とリスクマネジメント</li> <li>感染対策 3) 災害対策</li> <li>キーワード:産科医療補償制度 医療事故 感染 リスクマネジメント 災害</li> </ol>	講義	教科書を読んで授業に臨む
12	1. 場に応じた助産業務管理 1) 周産期棟・混合病棟の管理 2) 院内助産・院内助産院の管理 3) 助産師外来の管理 キーワード:看護体制 労務管理 院内助産 教材①P114~147	講義	教科書を読んで授業に臨む

	1. 助産所における助産業務管理	講義	教科書を読んで授業に臨む
	1) 助産所の管理に関する法規		
13	2) 助産所の管理・運営		
14	3) 助産所の経営		
	キーワード:助産所 法規 運営 経営		
	教材: ①P150~166		
15	単位認定試験		
15			

使用テキスト	①助産学講座 10 助産管理 第 6 版 医学書院		
参考書・資料等	助産師基礎教育テキスト 2016 年版 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 助産師業務要覧 第 2 版 基礎編 助産師業務要覧 第 2 版 実践編 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会 助産業務ガイドライン 2019 配布資料		
この授業科目の前提と	母性看護学 看護管理 地域母子保健		
なる主な科目	助産診断・技術学V 新生児期		
この授業科目から発展	助産管理実習		
する主な科目			
成績評価の方法	単位認定試験		
その他	助産師が助産活動をする上で助産管理の在り方を理解しておくことは重要です。		
受講生への要望等	講義開始は、助産管理実習終了後となります。		
文碼土への安全寺	管理実習の学びと講義の知識が関連づけられると、より理解が深まります。		

授業科目名	助産診断・技術学実習		
実務経験講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学 期	前期・後期
年 次	_	授業回数	
単 位 数	9 単位	単位時間数	405 時間
授業科目の概要	妊娠・分娩産褥期および新生児期にある対象を総合的に理解し、対象に適した助産過程を展開するために必要な知識・技術・態度を修得するための実習です。10 例の産婦を受持たせて頂き助産過程の展開と指導者の指導のもとで助産介助技術を修得します。継続事例を1 例受持たせて頂き、妊娠期から産後1ヶ月までの継続した支援を行います。更に助産師として必要な指導技術や帝王切開術など異常時の対応についても学びます。また、助産師の役割や責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。 実習は前期実習と後期実習に分かれており、前期実習後に学内で前期実習の振返りを行い自己の成長と課題を明確にして、後期実習に臨みます。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>正確で安全な手技で、妊産褥婦・新生児の健康診査が実施できる。</li> <li>妊産褥婦・新生児の助産診断ができ、助産過程を用いて対象の状況に応じたケアが実施できる。</li> <li>対象の力に目を向け、エンパワメントを意識した関わりができる。</li> <li>正確な手技で、安全な分娩介助が実施できる。</li> <li>継続事例の受持ちをとおして、継続した助産ケアの意義を述べることができる。</li> <li>小集団のニーズを把握して、小集団指導が実施できる。</li> <li>実習をとおして自己の助産に対する考え方の変遷や助産師の役割と責務について述べることができる。</li> <li>助産師として必要な資質である自己研鑽・謙虚な姿勢・良好な人間関係の構築・責任ある態度で実習を行える。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	実習要項参照	実習施設での臨地実習	・事前学習課題
	1.妊娠期	前期実習8月~9月	・助産過程の実習記録
	1)健康診査 2)ケア計画立案・実施(継続事例)	後期実習 10 月~11 月	・実習後レポート
	3)保健指導		A.継続事例を受持っての
	2.分娩期		学び
	1)健康診査 2)助産計画立案・実施		B.自己の助産観の変遷
	3)分娩介助 単胎・頭位・正期産の経膣分娩を 10 回程度		
	直接介助する		
	4)新生児の健康診査と出生直後のケア		
	5)異常分娩の見学		
	3.産褥期・新生児期・帝王切開事例		
	1)健康診査		
	2)ケア計画立案・実施		
	3)個別指導の計画・実施		
	4.小集団指導		
	1)指導計画立案		
	2)集団指導実施・評価		
	5.継続事例の受け持ち		
	妊娠中期~分娩~退院まで~産後1か月の母子への		
	継続支援		

使用テキスト	助産関連の講義で使用した教科書、参考書、講義資料、自己学習資料を十分に活用する	
参考書・資料等		
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 家族社会学 女性の心理学 女性の健康科学 助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学III 分娩期の助産技術 助産診断・技術学IV産褥期 助産診断・技術学 V 新生児期 母乳育児支援 健康教育の技術 助産過程の展開 助産師のコミュニケーション	
この授業科目から発展	助産菅理実習 地域母子保健実習	
する主な科目		
成績評価の方法	実習時間数の 4/5 以上の出席をもって評価の資格を得る 分娩介助については実習全期を単位認定の対象とし、総合的・形成的に評価する 実習終了時、助産診断・技術学実習評価表により評価する	
その他受講生への要望等	助産師として必要な知識・技術・態度を修得するためのメインとなる実習です。そのため単位数・ 実習時間も多くなっています。助産師として必要な知識が深まり技術が上達して学ぶ喜びもあり ますが、長い実習期間困難に遭遇することもあるかも知れません。実習グループの学生や教員と 相談し協力して実習を乗り切っていきましょう。	

授業科目名	地域母子保健実習		
実務建研講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年	学 期	前期~後期
年 次	_	授業回数	_
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	診療所、助産所における母子への支援を学ぶとともに、助産師の役割と活躍について理解します。 さらに市町村における実習を通して、病院施設等との連携を学ぶとともに、行政の母子および家族 を支援する地域母子保健システムを総合的に理解します。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>地域における助産師の母子保健活動に参加できる</li> <li>地域で活動する助産師の母乳ケア、健康相談を見学し、母子とその家族に対する支援について考察できる</li> <li>退院後~産後4か月程度の母子を支援する上で必要な視点や手段を理解した上で、実践できる基盤を身につける</li> <li>行政と病院施設等の連携について理解できる</li> <li>産後院における産後支援について参加し、助産師としての支援の実際が理解できる</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
		学外実習	産後 2 週間検診について
	実習要項参照	・母乳相談室	事前学習し、産後検診実習
	【実習の展開】	助産師の地域活動	に臨む。
	1)診療所における産後2週間検診を見学し、母乳支援や	・産後 2 週間検診	
	産後うつを含めた助産師の保健指導の活動を見学する	母乳相談	各市町村の特徴を理解
	2) 市町村での実習を通して行政と病院等の連携を学ぶ	・産後院の役割活動	把握、事前レポートし実習
	3) 新生児訪問を通して地域での母子保健活動を参画する	・市町村	に臨む。
	4) 産後院における母子への助産師の支援について見学する	行政側の母子保健	
		活動	実習後レポートあり。

使用テキスト	助産関連の講義で使用した教科書、参考文献、講義資料、自己学習資料を十分に活用する	
参考書・資料等		
この授業科目の前提と	助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学IV 産褥期	
なる主な科目	助産診断・技術学V 新生児期 地域母子保健 助産師のコミュニケーション	
この授業科目から発展	地域母子保健	
する主な科目		
成績評価の方法	出席は5分の4以上とすることで、単位認定の資格を得る。実習評価は、実習に対する態度・ 意欲、出席状況、実習記録、助産の実践状況の観点から実習目標と照らし合わせて総合的に評価 する。 (地域母子保健実習評価表に基づき評価する)	
その他受講生への要望等	を持った医療スタッフの一員だという自覚を持ち、責任ある行動をとってください。	

授業科目名	助産管理実習		
実務建研講師	0	実務経験	助産師
開講年度	2022 年	学期	
年 次	_	授業回数	
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	病院・助産所における助産管理と運営について学びます。 産科病棟・助産所・NICUの様々な場において、妊婦・産婦・褥婦・新生児が安全で快適な入院 生活および退院後の生活を安心して送るための助産管理の実際を学びます。 さらに、ハイリスク管理の重要性、地域の社会資源の活用、他職種・他施設との連携の在り方や 包括的ケアの実際を学ぶ科目です。		
授業科目の到達目標	<ol> <li>産科病棟・助産所の助産業務と助産師の役割を述べることができる。</li> <li>周産期医療に関わる助産師の役割について説明できる。</li> <li>地域連携の必要性と実際が関連づけられる。</li> <li>ハイリスクな状況にある対象に対し、特性に合わせたケアが見学、手順通り実施できる。</li> <li>チーム医療の一員である助産師が他職種と協働・連携しながら多角的視点で支援する方法を見出すことができる。</li> </ol>		

□	内容	授業方法	課題/小テスト
	実習要項参照	学外実習	NICU・産科病棟・助産所
	産科病棟:助産業務管理、病棟管理、人的・物的環境管理、	(実習施設は要項	実習における沿って事前
	周産期管理システムの見学	参照)	学習して実習に臨む
1	NICU:NICU の業務管理、入院患児の特性とケアを見学	・産科病棟	
	できる。他機関・他部門との連携の実際	·NICU	実習終了後、レポート提出
	助産所:助産所管理・運営の実際と経営	・助産所	あり
	助産所のケアと支援事業の見学		

使用テキスト	助産学講座 10 助産管理 第 6 版 医学書院		
	助産師業務要覧 第3版 2020年版 基礎編 日本看護協会出版会		
参考書・資料 等	助産師業務要覧 第3版 2020年版 実践編 日本看護協会出版会		
参方首・貝科   守	助産業務ガイドライン 2019		
	助産学講座 8 助産診断・技術学 V 新生児期・乳幼児期		
この授業科目の前提と	助産診断・技術学V新生児期		
なる主な科目	助産師のコミュニケーション		
この授業科目から発展	助産管理		
する主な科目	助産診断・技術学V新生児期		
	出席は5分4以上で単位認定の資格を得る。		
成績評価の方法	実習評価は、実習に対する態度・意欲・出席状況・実習記録・事後レポートで総合的に評価する。		
	(助産管理実習評価表に基づいて評価する)		
その他	助産管理の講義は実習終了後になりますが、事前学習を十分に行ってから実習に臨んでくださ		
受講生への要望等	γ <sub>2</sub> °		